

# 全学教育科目に係る 学生による授業アンケート報告書

平成27年度（平成27年度第1学期及び第2学期）

1. 平成27年度のアンケートについて
2. アンケートの実施方法
3. 各教員あて通知内容
4. アンケート用紙の様式
5. 調査対象の解析
6. アンケート結果と解析
7. 総合評点の度数分布
8. 分析のための全体集計

# 1. 平成 27 年度授業アンケートについて

本学は、授業内容や教育方法の改善の組織的活動の一環として、平成 11 年度より毎年学生による「授業アンケート」を全学的に実施し、その結果を公開している。平成 15 年度までは冊子体の報告書（年次報告書に掲載）を刊行した。平成 16 年度からホームページ上にのみ公開している。平成 18 年度第 2 学期から、一部設問を変更し 16 の設問によるアンケートが用いられている<sup>(注1)</sup>。平成 24 年度には、授業アンケートの実施方法等を見直し、全学教育科目については高等教育推進機構で、学部専門科目については各学部において、それぞれの特性を考慮した独自の授業アンケートを実施している。さらに平成 25 年度からは、無作為に抽出された一部の科目に対し、「汎用的能力」に関する追加設問を試験的に依頼し、その調査結果の概要を掲載している。

本報告は、高等教育推進機構で平成 27 年度 1 学期と 2 学期に実施された全学教育科目における「授業アンケート」の結果をまとめたものである。両学期を合わせたアンケート実施総授業数は 778（非常勤講師を含む）であり、延べ 31,805 名の学生から回答を得た。アンケート結果は授業担当者だけではなく、科目責任者にもフィードバックし、教育効果の検証を組織的に行い、授業改善のための資料となっている。また、平成 26 年度実施分から、授業アンケート結果を受けて各教員が改善した事項等について、各教員および科目責任者からの報告をまとめて本学資料ホームページ（学内限定）に公表している。

## 1.1 回答結果の概要

以下に、平成 27 年度調査結果の概要を示す。

### ■調査実施概要

各教員に、平成 27 年度に担当している授業科目のうち、適当な一つ以上の科目を選択し、調査を実施するよう依頼した。平成 27 年度第 1 学期および第 2 学期は、非常勤講師を含む担当教員 705 名中 568 名が調査を実施し、実施率は 80.57%（括弧内は同平成 26 年度、25 年度、24 年度調査結果：75.60%，74.31%，69.86%）であった。本学教員の実施率は 82.33%（75.04%，73.63%，67.99%），非常勤講師の実施率は 70.48%（78.57%，78.10%，79.82%）である。

本学教員の実施率は増加を続け、今回の調査において 80%を超えた。非常勤講師の実施率については、例年本学教員の実施率よりも高い傾向にあったが、今回約 70%と低くなり、昨年と比較しても 8 ポイント減である。ちなみに非常勤講師数については、徐々に減少する傾向にあり、平成 24 年度の 150 名が、平成 27 年度には 105 名になっている。アンケートを実施した授業総数は 778（平成 26 年度：724, 25 年度：659）で、担当教員あたりの

延べ実施率は 110.35%（平成 26 年度：102.70%，25 年度：95.65%）であった。非常勤講師の担当教員あたりの延べ実施率は、111.43%を示しているのにもかかわらず、実施率は 70.48%と低い値となっている。このような授業アンケートの意義について、教員によって多少の温度差があることをうかがわせる結果である。

### ■総合評価評定平均値

総合評価は平成 23 年度まで、学生の行動に関する設問 11～13（出席率、授業への積極的な参加、自習時間）を除いた設問 1～10、設問 14～16 までの評定値の平均を指標としていたが、設問 3（授業要求される作業量）と 4（授業の難易度）は、1.3 章で後述するように、授業の質の直接的な評価とはならないので、平成 24 年度から除外している。また、設問 14（シラバスの達成目標の達成度）も平成 24 年度より 5 段階評価から達成割合を定量的に回答するよう変更したので除外している。結果として、総合評価は、設問 1～2, 5～10, 15～16 の 5 段階評価平均値を指標としている。今回の総合評価全体平均は 4.04 であった。平成 24 年度以降、今回の調査までの 4 年間の全体平均値は、4.01, 4.03, 4.04, 4.04 と推移し、高止まりの傾向が続いている。

### ■科目別評定平均値

科目別の平均点は、高い順に演習科目（4.36）、外国語科目（4.28）、選択科目（4.15）、講義科目（3.98）、必修科目（3.93）となっている。昨年と同様の傾向であり、講義科目、必修科目の平均点が 4.0 をわずかに切っているのも同様である。講義および必修科目は比較的クラスサイズが大きい授業であり、必修科目には難易度の高い数学・物理などの理系基礎科目が含まれていることが、比較的低い平均点となる原因と考えられる。

### ■肯定的回答の経年変化と科目別回答傾向

各設問の回答選択肢の上位 2 項目（「強くそう思う」と「そう思う」）を合わせた比率、項目番号 4, 11, 13, 14 については、表中の説明通りの集計結果）を表 1 に示した。今回の結果に加えて、「全体」については過去 3 年分の結果も掲載した。経年変化に大きな変化はなく、各設問の値はわずかに振動しつつ、推移しているように見える。昨年度と今年度を比較すると数値のわずかな減少が目立つ。特に、「教育効果」に関する項目は 3 つの設問すべてにおいて数値が減少している。「全体」の割合が最も高い項目は、例年通り、「学生の授業への出席率」であり、出席率 80%以上が 92.7%となっている。さらに、評価の高い項目は、「シラバスに沿って授業が行われた」（82.1%）、「シラバスは授業の目標・内容・評価方法を明快に示した」（81.8%）と続く。

授業方法、教員の行動に関する評価において、昨年度と比較して値が上昇しているのは、「黒板、教科書、プリントや A V 機器等の使われ方が効果的であった」のみである。また、昨年度、高止まりから上昇に転じたと解釈した「教員は効果的に学生参加を促した」は昨

年度の 63.2% から 0.6 ポイント減少して 62.6% となった。

科目別に見て見ると、授業全体の満足度（設問 16）の高い科目（演習科目：87.6%，外國語科目：84.8%）は、満足度の低い科目（講義科目：71.6%，必修科目：68.1%）に比べて、授業方法と教員の行動に対する設問で約 10 ポイント以上、学生参加に関する設問 8 で 30 ポイント近く、肯定的な回答の比率が高くなっている。また、学生の授業参加への積極性（設問 12）についても、20 から 25 ポイントほどの差を確認することができる。講義科目や必修科目においては、双方向の授業に向かない科目もあると考えられ、これらの差を縮めることが重要であるとは思わないが、学生が授業へ積極的に臨むことができるような工夫は求められているのかもしれない。

学生の行動や教育効果に関しては、例年と大きな差はなく、「質問、発言、調査、自習などにより、この授業に積極的に参加した」が全体で 52.5%，「シラバスの到達目標を 8 割以上達成できた」が 48.0%，「知的に刺激され、さらに深く勉強したくなった」が 64.5% となっている。授業に積極的に臨むことができず、高い達成感を得ることができない学生が相当数存在することがわかる結果となっている。特に講義科目や必修科目においてその傾向が顕著である。

**表 1 授業タイプ別「強くそう思う」と「そう思う」を選んだ学生の比率 (%)**  
項目 4, 11, 13, 14 については、それぞれの内容にある通りの集計を行っている

カテゴリー	項目番号	内容	講義科目	演習科目	必修科目	選択科目	外国語	全体 (H27)	全体 (H26)	全体 (H25)	全体 (H24)
授業について	1	目標、内容、評価方法を明快に示した	80.6	87.7	78.7	85.0	86.5	81.8	81.6	80.6	79.4
	2	授業はシラバスにそって行われた	81.0	87.6	79.4	85.0	86.3	82.1	81.7	81.1	79.7
	3	レポート等の作業量は適切だった	75.2	79.7	72.7	79.3	83.5	76.0	75.2	74.3	74.4
	4	授業の難易度を「C:適切」と回答した学生の割合	52.2	59.4	47.3	59.7	61.7	53.4	53.0	53.8	52.4
授業方法、教員の行動	5	教員の説明はわかりやすかった	69.4	85.1	67.3	77.0	83.2	72.1	72.8	72.1	71.1
	6	教員の熱意が伝わってきた	74.3	85.8	71.6	81.1	85.6	76.3	76.3	75.9	75.4
	7	教員の話し方は聞き取りやすかった	71.9	86.5	69.5	79.4	84.7	74.4	74.7	74.7	72.9
	8	教員は効果的に学生参加を促した	57.9	86.0	59.8	65.6	85.2	62.6	63.2	60.9	59.6
	9	教員は学生の質問・発言等に適切に対応した	69.8	89.1	71.0	75.2	87.5	73.1	73.3	72.8	72.9
	10	黒板、教科書、プリントやAV機器等の効果的利用	73.9	83.5	70.9	80.4	78.8	75.6	75.0	73.9	71.7
	11	この授業の出席率(80%と100%の合計)	92.0	96.2	92.5	92.8	95.5	92.7	93.0	92.1	92.5
学生の行動	12	自分はこの授業に積極的に参加した	48.0	74.2	49.6	55.5	68.3	52.5	52.1	50.3	48.2
	13	授業一回あたりの学習時間(3時間以上)	11.8	17.3	14.3	11.2	10.9	12.7	12.5	11.5	10.8
教育効果	14	私はシラバスの到達目標を達成できた(8割以上)	44.8	63.5	42.8	53.3	57.2	48.0	48.5	48.1	48.2
	15	知的に刺激され、深く勉強したくなった	61.3	79.8	57.1	72.1	71.9	64.5	65.7	64.3	64.2
	16	授業は全体として満足できるものだった	71.6	87.6	68.1	80.7	84.8	74.3	75.0	73.9	73.5
回答人数(人)			26,391	5,414	16,098	15,707	5,792	31,805	29,009	28,137	25,933

### ■授業 1 回あたりの授業外学修時間

授業 1 回あたりに費やした予習・復習の時間（設問 13）は、「30 分以下」が 38.9%（括弧内は同平成 26 年度、25 年度、24 年度の調査結果を順に記載：38.0%，40.0%，41.6%），「1 時間」が 29.7%（30.9%，30.4%，30.3%），「2 時間」が 18.6%（18.5%，18.0%，17.3%），「3 時間」が 7.2%（7.3%，7.1%，6.0%），「4 時間以上」が 5.5%（5.3%，4.4%，4.8%）で、昨年度の調査と比較すると、「30 分以下」が若干増えて、「1 時間」がその分減り、それ以上はほとんど変わらない結果となっている。授業外学修時間の平均<sup>(注2)</sup>は、1.20 時間（1.20 時間、1.16 時間、1.12 時間）であり、昨年から変わっていない。1.2 時間程度で頭

打ちの近年の傾向が続いている。

必修／選択科目別に見ると、必修科目は 1.34 時間（1.28 時間、1.28 時間、1.24 時間）、選択科目は 1.07 時間（1.12 時間、1.04 時間、1.03 時間）となっており、昨年と比較すると、必修科目 3.6 分増、選択科目 3.0 分減となっている。必修科目と選択科目の差は 16.2 分であり、昨年度の差 9.6 分より差が開いており、必修科目の授業外学修時間が増えていることがわかる。クラスサイズによる差は次の通りである。25 人以下のクラスで 1.32 時間（1.38 時間、1.40 時間、1.35 時間）、26 人から 50 人で 1.22 時間（1.24 時間、1.21 時間、1.18 時間）、51 人から 100 人で 1.21 時間（1.19 時間、1.15 時間、1.15 時間）、101 人から 200 人で 1.29 時間（1.22 時間、1.15 時間、0.98 時間）、201 人以上で 0.94 時間（0.99 時間、0.91 時間、0.90 時間）である。昨年度と比較すると比較的サイズの大きい 101 人以上のクラス、かつ必修科目において授業外学修時間の伸びが比較的大きいことがわかる。

授業形態<sup>(注3)</sup>別の授業外学修時間を表 2 に示した。講義（1 単位）、講義（2 単位）、演習、外国語の順に授業外学修時間が長くなっている。平成 23 年度 2 学期以降長く続いていた外国語、演習の順が逆転し、演習の授業外学修時間は昨年度比 6.6 分減となった。

表 2 授業形態による授業外学修時間（単位：時間）

科目区分 授業形態	全学教育科目				
	講義 (1単位)	講義 (2単位)	演習	外国語	実技
平成23年度2学期	0.76	1.19	1.28	1.20	0.70
平成24年度	0.79	1.12	1.31	1.31	0.83
平成25年度	0.82	1.16	1.33	1.28	—
平成26年度	0.83	1.20	1.39	1.32	—
平成27年度	0.87	1.21	1.28	1.35	—

※平成 25 年度より実技（体育 A）は、アンケートの対象外

授業外学修時間に関する設問は、平成 18 年度第 1 学期の授業アンケート実施分から、単位の実質化の進展状況を把握する指標のひとつとして導入し<sup>(注4)</sup>、調査を継続している。授業外学修時間については、表 3 が示すように近年 5 年間は、1.12 から 1.20 時間で推移しており大きな変動はない。平成 18 年度以降、長期間の授業外学修時間の経年変化については、高等教育推進機構ニュースレター No.103<sup>(注5)</sup> に詳細が掲載されている。平成 22 年度以降は、大きな変動はなく、約 1.2 時間となっている。各調査年度における授業外学修時間の回答者の比率にも大きな変動はなく、約 7 割の学生の授業 1 回あたり予習・復習時間は 1 時間以下である（表 3）。

全体平均を見ると変動はないものの、科目別、クラスサイズ別に見ると多少の変化が見られたことが今回の調査結果の特徴である。

表3 授業外学修時間の推移（全学教育科目）

	回答者の比率(%)				授業外学修時間平均値
	1時間以下	2時間	3時間	4時間以上	
平成23年度 (2学期)	70.9	18.2	5.9	4.9	1.15
平成24年度 (1学期・2学期)	71.9	17.3	6.0	4.8	1.12
平成25年度 (1学期・2学期)	70.4	18.0	7.1	4.4	1.16
平成26年度 (1学期・2学期)	69.0	18.5	7.3	5.3	1.20
平成27年度 (1学期・2学期)	68.7	18.6	7.2	5.6	1.20

### ■文系／理系別総合評点

本年度の総合評点（設問1～2、5～10、15～16のアンケート回答数全体の平均値）は、4.04であった。平成24年度に4.01と初めて4を超えて以来、その値は毎年ごくわずか上升しており、一昨年度は、4.03、昨年度は4.04であった。本年度は昨年度と同じ平均値である。

表4には、非常勤講師が担当する授業を除外した（非常勤講師担当の授業は文系／理系に区分されておらず、「非常勤講師」とだけ分類されているため）科目ごとの総合評点とともに分析した過去5年分の結果を示した。本年度、文系科目4.21に対して、理系科目は4.16であり、文高理低の傾向が長く続いている<sup>(注6)</sup>。その評点の差は、例年0.2から0.3点ほど開いていたが、今年度の差はわずか0.05点であった。昨年度に比べて文系の評点が下がり、理系の評点が上がったためである。文系科目と理系科目の差は、平成24年度以降ごくわずかに広がる傾向があった。「理系科目の総合評点が上がるような授業改善を行っていく必要を示唆する結果となっている」と昨年の報告書に述べたが、早速理系科目の改善の兆しが見えた結果となった。詳細な議論のためには、来年度以降の経年変化に注視する必要があり、実際にどのような授業改善の取り組みが成されているのかについても調査してみたい。

表4 総合評価の系別の平均値と標準偏差（SD）

	全学教育全体	全学教育	
		文系	理系
平成23年度2学期	平均値(SD)	4.04 (0.37)	4.20 (0.31)
	範囲	2.77-4.76	3.36-4.76
	授業数	171	81
平成24年度	平均値(SD)	4.11 (0.39)	4.22 (0.32)
	範囲	2.53-4.97	3.23-4.97
	授業数	494	228
平成25年度	平均値(SD)	4.15 (0.39)	4.27 (0.35)
	範囲	2.50-4.94	2.55-4.90
	授業数	541	269
平成26年度	平均値(SD)	4.18 (0.39)	4.33 (0.33)
	範囲	2.33-5.00	3.21-5.00
	授業数	599	289
平成27年度	平均値(SD)	4.19 (0.38)	4.21 (0.37)
	範囲	2.57-4.19	2.57-4.21
	授業数	661	311
			350

※非常勤講師の担当授業は除外した科目ごとの分析値

平成23年度2学期は、設問1~10、設問14~16までの評定値の平均

平成24年度以降は、設問1~2、5~10、15~16の平均値

## 1.2 授業改善のための取り組み

### ■教育総長賞

教育活動において優れた功績を上げた教員を顕彰する教育総長賞制度が平成23年度に創設された。平成27年度は優秀賞8名、奨励賞41名に同総長賞が授与された。

(参考 URL : [http://www.hokudai.ac.jp/bureau/news/jihou/jihou1602/743\\_01.html](http://www.hokudai.ac.jp/bureau/news/jihou/jihou1602/743_01.html))

### ■授業参観

授業改善方策の一環として、平成22年度から一部の全学教育科目の授業参観が可能となった。「授業アンケートによるエクセレント・ティーチャーズ」の担当科目、授業アンケートにおける評価の高い科目、科目責任者が推薦する外国語・理系基礎科目、公開希望があった科目などが対象である。ティーチング・フェローやティーチング・アシスタントも参加可能であり、前者については授業参観参加を義務化している。平成22年度に7名であった参加者は、平成27年度には105名となり、大きく増加している。

## ■1週間あたりの自習時間

平成 21 年度から、複数の大学が参加する学習状況調査（IR ネットワーク）に加わり、毎年 1 年生および 3 年生を対象に共通アンケートを実施している。この調査内では、1 週間あたりの自習時間を聞いている。平成 27 年度の調査結果では、国内国公私立大学 8 校（本学を含む）の平均値が 1 年生 4.4 時間（昨年度：4.3 時間）、上級生（2～4 年生）4.0 時間（4.0 時間）に対して、本学の 1 年生は 8.4（7.9 時間）、上級生（3 年生）は 7.0 時間（7.2 時間）であった。本学学生は、「授業時間以外に授業に関係のない勉強をする時間」も長く、8 校全体の平均値が 1 年生 1.7 時間（1.7 時間）、上級生 2.7 時間（2.8 時間）に対して、それぞれ 2.0 時間（2.2 時間）、3.8 時間（4.0 時間）であった。本学 1 年生の 1 週間あたりの自習時間については、昨年度から 30 分ほどの伸びが確認され、複数の大学全体の平均値に比べ近くの学習時間であることがわかる。

（参考 URL : <http://8gp.high.hokudai.ac.jp/3-houkoku.html>）

## ■FD (Faculty Development)

毎年 3 回開催される「全学 FD（教育ワークショップ）」ではシラバスの適切な書き方を学ぶとともに、ELMS（北大版 e- ラーニングシステム）、グループ学習、クリッカーなどのアクティブラーニングの手法が紹介され、教育現場に取り入れられている。また、平成 27 年 4 月には、高等教育研修センターが設置され、多様なプログラムの FD を展開するとともに、授業コンサルテーションも行っている。

## 1.3 単位の実質化と総合評価の算出方法

本学は、「単位の実質化」の実現に向けて、GPA 制度の本格的運用と履修単位数の上限設定の導入、FD（教育ワークショップ）で「単位の実質化」を重視した授業設計の実習を行うなど、積極的な取り組みを推進してきた。しかし、授業内容の難易度や課される作業量について、教員と学生の期待や認識に大きなズレがあることが広く知られており、授業外学修時間を増やすための教員の努力が現行の授業アンケートにおける総合評価に好意的に反映されない可能性が示唆されている<sup>(注7)</sup>。そこで、平成 24 年度実施分から設問 3（作業量）および設問 4（難易度）を総合評価の対象から除外した。

この判断の妥当性は毎年確認しており、作業量（設問 3）と難易度（設問 4）、授業外学修時間、総合評価との関係について調べた。表 5 は、授業アンケートの各設問について、回答選択肢毎の自習時間の平均値を示したものである。作業量については、その量が適切かどうかの回答と平均値の間に相関が見られない。難易度については過去の結果と同様に「5. 極めて難しい」と回答した学生の平均値が最も高く、適切な作業量であるかについては「1. 強くそう思わない」の平均値が最も高くなっている。具体的には次の通りである。

表5 回答選択肢毎の平均授業外学修時間 a)（全学教育） 平成27年度

各欄の数値は平均値、(標準偏差)、回答者数を示す  
網掛け部分は設問毎の最も高い平均値を示す

設問		番号	回答選択肢 <sup>b)</sup>				
内容			1	2	3	4	5
A 授業内容	授業目標、内容、評価方法が明快なシラバス	Q1	0.96 (1.13) 232	1.00 (0.93) 403	1.16 (0.95) 5,102	1.12 (0.98) 13,198	1.32 (1.20) 12,597
	シラバスに沿って行われた	Q2	1.03 (1.17) 208	1.09 (0.97) 449	1.19 (0.96) 4,989	1.12 (0.98) 12,722	1.30 (1.19) 13,167
	適切な作業量	Q3	1.89 (1.46) 536	1.43 (1.17) 1,140	1.20 (0.97) 5,910	1.13 (0.97) 10,999	1.23 (1.16) 12,948
	難易度 <sup>c)</sup>	Q4	0.80 (1.05) 269	0.87 (0.81) 1,415	1.07 (0.92) 16,859	1.26 (1.05) 9,520	1.88 (1.51) 3,509
	難易度(変換) <sup>d)</sup>		1.81 (1.51) 3,778	—	1.21 (1.03) 10,935	—	1.07 (0.92) 16,859
B 授業手法・教員の行動	わかりやすい説明	Q5	0.99 (1.03) 660	0.98 (0.93) 1,696	1.13 (0.93) 6,460	1.14 (1.00) 11,244	1.35 (1.21) 11,500
	熱意が伝わった	Q6	0.97 (1.06) 427	0.97 (0.95) 1,109	1.14 (0.93) 5,956	1.13 (0.99) 11,002	1.32 (1.19) 13,092
	聞き取りやすい	Q7	0.91 (0.97) 652	0.97 (0.92) 1,542	1.14 (0.93) 5,897	1.15 (1.01) 10,511	1.32 (1.19) 12,987
	参加を促進	Q8	0.80 (0.93) 883	0.78 (0.80) 2,610	1.06 (0.90) 8,313	1.21 (1.02) 9,284	1.45 (1.24) 10,491
	適切な対応	Q9	0.87 (1.05) 376	0.95 (0.94) 937	1.04 (0.89) 7,199	1.15 (1.00) 10,569	1.37 (1.21) 12,489
	適切な機器使用	Q10	0.94 (1.00) 434	0.95 (0.91) 1,184	1.17 (0.92) 6,098	1.13 (1.00) 11,188	1.32 (1.20) 12,639
C 学生の行動	出席率 <sup>e)</sup>	Q11	0.61 (0.87) 142	0.94 (0.91) 203	1.53 (0.93) 1,951	1.08 (0.99) 8,886	1.23 (1.11) 20,405
	積極的な授業参加	Q12	0.51 (0.69) 1,138	0.68 (0.72) 2,946	0.98 (0.84) 10,774	1.30 (1.00) 9,741	1.77 (1.36) 6,760
D 教育効果	知的刺激、学習意欲向上	Q15	0.90 (1.02) 1,069	0.87 (0.89) 1,964	1.06 (0.89) 8,171	1.18 (0.98) 11,494	1.48 (1.29) 8,841
	満足度	Q16	1.01 (1.10) 669	1.00 (0.99) 1,273	1.12 (0.93) 6,163	1.12 (0.97) 11,158	1.34 (1.21) 12,263

a) 0.25=30分以下、1=1時間、2=2時間、3=3時間、4=4時間以上 として計算した

b) 1=強くそう思わない、2=そうは思わない、3=どちらともいえない、4=そう思う、5=強くそう思う

c) 1=極めてやさしい、2=やさしい、3=適切、4=難しい、5=極めて難しい

d) 1=極めてやさしい+極めて難しい、3=やさしい+難しい、5=適切

e) 1=20%、2=40%、3=60%、4=80%、5=100%

### ● 設問 3 「授業で要求される作業量は適切であった」（表 5）

回答者の 76.0%が「適切だった」（「強くそう思う」か「そう思う」を選択）と回答し、これらの学生の授業外学修時間の平均は 1.18 時間であるのに対し、「不適切だった」（「強くそう思わない」か「そう思わない」を選択）と回答した 5.3%の学生の授業外学修時間の平均は、1.58 時間であった。つまり、学生が考える適切な作業量は、授業外学修時間の平均である 1.18 時間程度で完了できるものであり、それ以上時間を要すると課題の量が多く、完成に時間がかかるので不適切だと判断していると解釈することができる。また、「どちらともいえない」や「そう思う」を選択した学生の授業外学修時間は、それぞれ 1.20 時間、1.13 時間と平均程度から短い方に偏っているので、この中には課題量が少ないと感じている学生も存在していると考えられる。経年変化も見ても毎年ほぼ同様の傾向を示している（表 6）。よってこの項目で高評価を得る授業は、1.2 時間程度で完成することができる作業を課しているという結論になり、単位の実質化の目指す方向と矛盾する。

### ● 設問 4 「授業内容の難易度は適切であった」

「極めて難しい」と回答した学生の授業外学修時間の平均は 1.88 時間、「難しい」が 1.26 時間、「適切」が 1.07 時間であり、以下「やさしい」と「極めてやさしい」がそれぞれ 0.87 時間、0.80 時間と 1 時間以下となっており、昨年度に比べ大差はなく、難易度と授業外学修時間には正の相関がある。また、「適切」を評価 5、「難しい」と「やさしい」を評価 3、「極めて難しい」と「極めてやさしい」を評価 1 と換算して結果を見てみると、「適切」と回答した授業外学修時間が一番短く 1.07 時間となる。理想は、「適切」と評価する学生の授業外学修時間が最も長くなることではあるが、結果が示す通り評価に授業外学修時間の長さが反映されない。

以上のことから、過去の調査とおおよそ同様に、「作業量」と「難易度」の回答に対する評点が、単位の実質化のめざす方向と矛盾していることが示されている（注 7）。一方、表 5 の設問 3、4 以外に注目すると、よい授業だと評価している学生は自習時間が多い傾向、または自習時間が長い学生は授業を好意的に評価する傾向があることを示しており、単位の実質化の効果を支持する結果と言える。これらの結果から、設問 3、4 を総合評価から除外することの妥当性が今回の結果からも示された。

表 6 設問 3 回答選択肢毎の平均授業外学修時間の経年変化（全学教育）<sup>a)</sup>  
網掛け部分は年度毎の最も高い平均値、あるいは値が近い場合は上位 2 つの平均値を示す。

設問 3 <sup>b)</sup>	授業で要求される作業量(レポート、課題、予習・復習など)は適切であった				
	強くそう思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	強くそう思う
H18 <sup>c)</sup>	1.20 (1.03) 487	1.22 (0.97) 1,336	1.01 (0.78) 7,353	1.02 (0.81) 7,127	1.13 (0.98) 6,981
H19	1.35 (1.15) 1,012	1.16 (0.92) 2,921	1.08 (0.80) 13,536	1.05 (0.81) 16,547	1.16 (1.00) 16,547
H20	1.32 (1.14) 965	1.18 (0.88) 2,770	1.12 (0.80) 14,011	1.11 (0.82) 17,001	1.22 (1.04) 17,779
H21	1.68 (1.32) 969	1.30 (0.97) 2,379	1.18 (0.81) 12,741	1.19 (0.86) 16,776	1.31 (1.06) 17,848
H22	1.39 (1.11) 834	1.33 (0.96) 2,288	1.26 (0.83) 12,129	1.25 (0.88) 16,845	1.41 (1.11) 18,105
H23	1.52 (1.19) 698	1.37 (0.99) 2,024	1.26 (0.83) 11,132	1.28 (0.89) 16,476	1.45 (1.14) 18,424
H23 <sup>d)</sup> (2学期のみ)	1.51 (1.46) 129	1.22 (1.07) 398	1.08 (0.90) 1,939	1.10 (0.93) 3,017	1.22 (1.13) 3,889
H24 <sup>d)</sup>	1.43 (1.30) 365	1.25 (1.08) 1,076	1.09 (0.92) 5,146	1.07 (0.93) 8,554	1.17 (1.13) 10,559
H25 <sup>d)</sup>	1.58 (1.31) 452	1.30 (1.06) 1,211	1.12 (0.92) 5,502	1.11 (0.97) 9,377	1.18 (1.10) 11,381
H26 <sup>d)</sup>	1.48 (1.29) 523	1.38 (1.07) 1,175	1.15 (0.93) 5,443	1.15 (0.97) 9,756	1.24 (1.16) 11,915
H27 <sup>d)</sup>	1.89 (1.46) 536	1.43 (1.17) 1,140	1.20 (0.97) 5,910	1.13 (0.97) 10,999	1.23 (1.16) 12,948

a) 各欄の数値は平均値、(標準偏差)、回答者数を示す

b) 旧授業アンケートの場合は設問 11

c) 旧授業アンケートによる H18 年度前期の回答者のみ

d) H23 年度 2 学期 (H23-2) と H24 年度以降は全学教育科目のみの分析結果

## 1.4 汎用的能力に関する追加設問の回答結果概要

授業の特性を考慮した設問内容の設定に向けて、汎用的能力の教育成果に関する 4 つの設問（コミュニケーション能力、人間や社会の多様性の理解、創造的な思考能力と建設的な批判的能力、社会的責任と普遍的な倫理観の向上度）を追加設問として、教養科目（コアカリキュラム）の中から無作為に抽出した一部科目を対象に調査を依頼した。平成 24 年度第 1 学期に試験的に実施し、平成 25 年度第 2 学期からは試行として実施している。本年度は 133 科目から回答を得た。4 つの設問の内、どの設問を追加設問とするかは、各担当教員に任されており、全員が必ずしもすべてに回答しているとは限らない。以下に、平成 27 年度の調査結果の概要を示す。

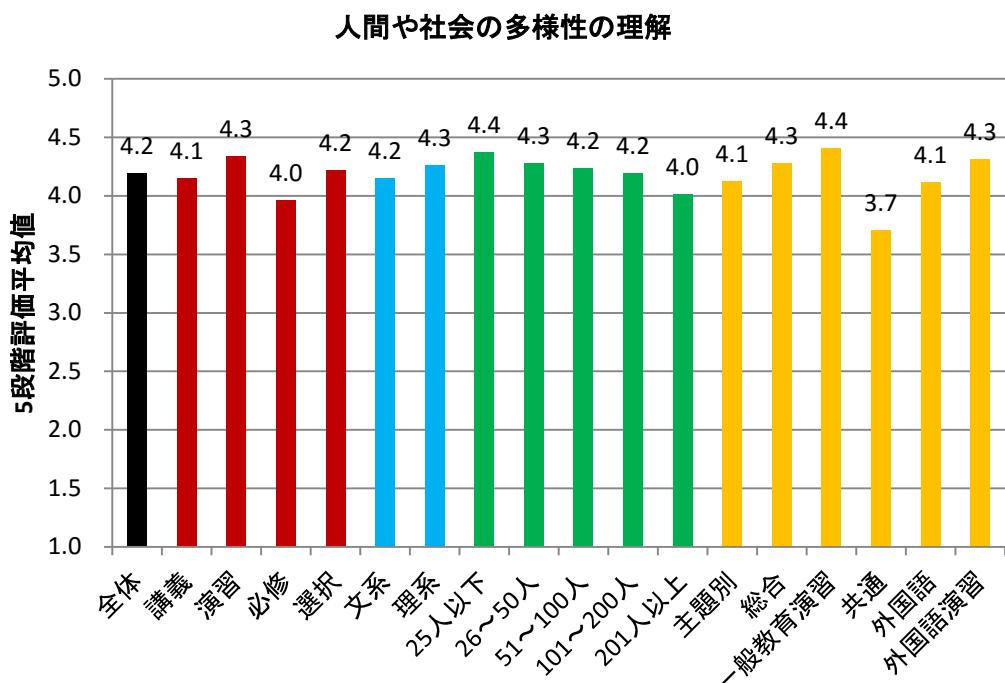
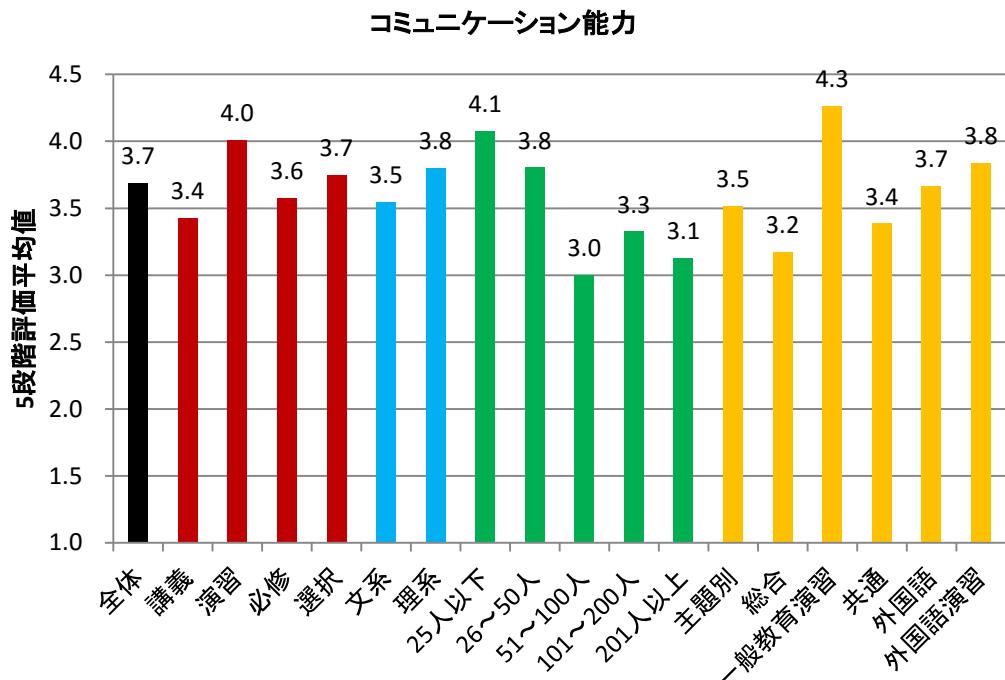
### ■設問項目

設問は、「この授業を受講して、下記の「追加設問 1～4」に示した能力・理解・認識が向上したと思いますか？」となっており、5 段階評価（5：かなり向上した、4：少し向上した、3：どちらともいえない、2：あまり向上しなかった、1：向上しなかった）で回答を求めている。各設問の詳細は次の通りである。

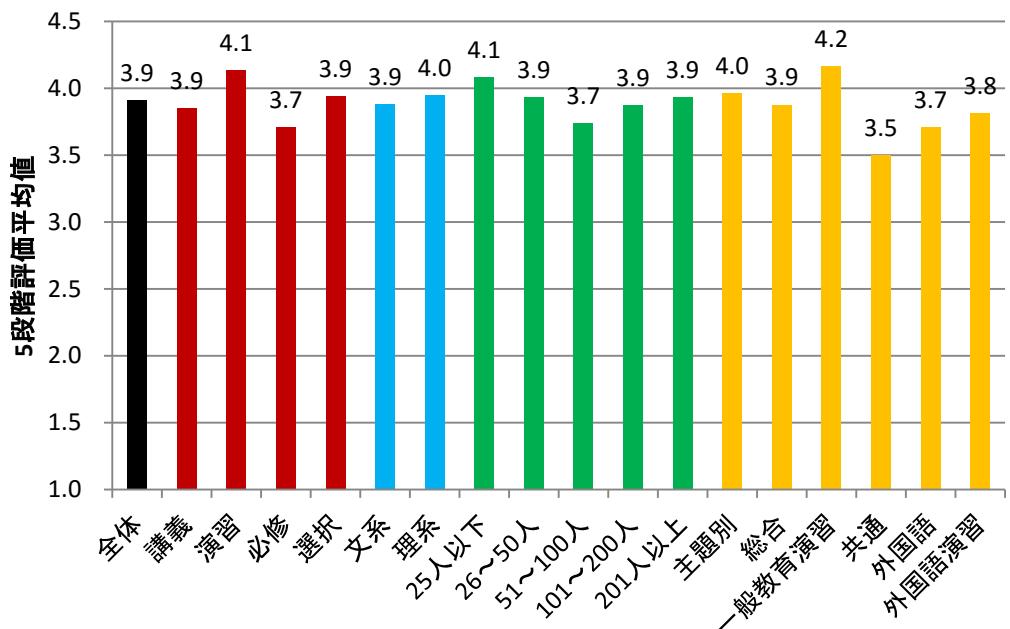
- 1) コミュニケーション能力を育成すること  
(人間や社会に係わる事象や自然界の事象を主として言語を通じて正しく理解できること、自分の考えを的確に言語的に表現できること、相互にアイデアを交換できること。)
- 2) 人間や社会の多様性を理解すること  
(各学問分野の専門家が、専門の壁を越えて行う授業を通して、それぞれの専門の持つ幅と奥行きを体験するとともに、自分が志望する専門以外の分野についても、積極的に視野を広げること。)
- 3) 研究の一端に触れながら独創的かつ批判的に考える能力を養うこと  
(根拠にもとづく推論とは何か、矛盾をどのように解決するか、公平で的確な判断をどのように行うかなどを経験することによって、独創的で批判的なものの考え方を理解し身につけること。)
- 4) 社会的な責任と倫理を身につけること  
(制度や科学技術が高度に発達した社会において、人間としてあるいは市民としての普遍的な倫理について、具体的な事例の検討を通じて考えること。)

## ■5段階評価の平均値

4つの設問それぞれについて、5段階評価の平均値を全体に加え、「講義／演習／必修／選択」科目別、「文系／理系」別、「クラスサイズ」別、「科目区分」別に求め、グラフ化した（図1）。



### 独創的かつ批判的に考える能力



### 社会的責任と倫理

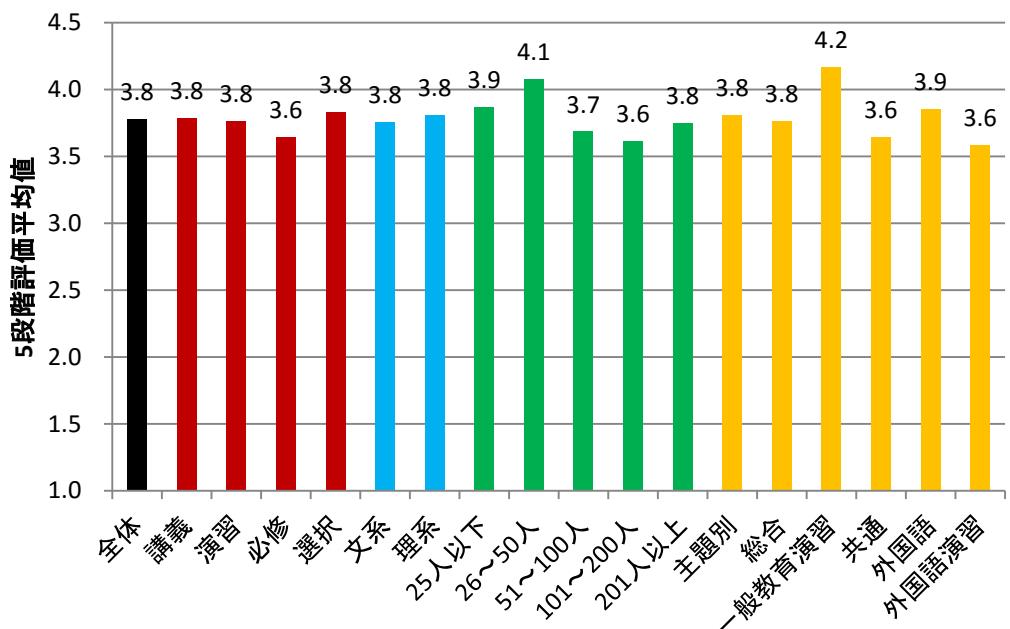


図1 汎用的能力に関する4つの質問の平均評点

## ■全体平均の比較

4つの質問の全体平均を比較し、評点の順に並べると、「コミュニケーション能力（評価平均値：3.685）」、「社会的責任と普遍的な倫理観（3.780）」、「創造的な思考能力と建設的な批判的能力（3.914）」、「人間や社会の多様性の理解（4.189）」となり、昨年とその順位は同じである。「コミュニケーション能力」については、昨年と同様に各分類における平均値のばらつきが大きい。表7には、各設問の回答者数と標準偏差を示した。次に、各設問毎に詳細を議論する。

表7 各設問の回答者人数と回答の標準偏差

設問	回答者人数(人)	標準偏差
コミュニケーション能力	2,236	1.05
人間や社会の多様性の理解	2,882	0.83
独創的かつ批判的に考える能力	1,783	0.87
社会的責任と倫理	1,111	0.95

## ■コミュニケーション能力

この項目については、グラフの分類毎の評価平均値差が大きい。他の設問に比べて、自己評価し易い設問だと思われる所以で、分類毎の差がはっきり表れたと解釈することができる。評価平均値の最高値は、「一般教育演習」の4.3（昨年度：4.2）、最低値は、「クラスサイズ51～100人以下」の3.0（3.1）であった。両者ともに昨年と同じ分類である。一般教育演習が分類されている「演習科目」、「クラスサイズ25人以下」でもその評価は高く、「教員と学生、学生相互の人間的ふれあいを通じて新入生が大学という新しい環境に早期に適応できるような条件をつくる…」という開講のねらいを達成している結果と言える。

## ■人間や社会の多様性の理解

この質問は、各分類における平均値はあまり変わらず、回答のばらつき（標準偏差0.83、表7参照）が最も小さくなっている。「一般教育演習」の平均値は、4.4と高く、その授業の中で学生同士、あるいは教員と学生の間でそれぞれの多様な価値観に触れた結果であると考えられる。しかし、このような理解は、授業のみならず、学外活動においても涵養されるものであると考えられるので、各分類間の差が小さくなったと解釈することができる。

## ■独創的かつ批判的に考える能力

他の設問と同様に「25人以下」少人数クラス（評価平均値：4.1）、「一般教育演習（評価平均値：4.2）」で評価値が高くなっている。一般教育演習では、このような能力を付けることを目標にした授業が多く存在すると考えられる。しかし、「コミュニケーション能力」に

比べると、自己評価の難しい質問内容であると考えられ、回答に差が出なかつたと思われる。

### ■社会的責任と倫理

この設問の回答のばらつき（表7）は、「コミュニケーション能力」に次いで大きくなっている（標準偏差0.95）。平均値の高い分類は、「26～50人以下」のクラス（評価平均値：4.1）、「一般教育演習」（評価平均値：4.2）である。この設問に「5：かなり向上した」と回答したものに絞って見ると、特定の授業が並ぶことがわかる。つまりある特定の授業を受講した多くの学生が、この設問に高評価を付けているということである。これらの授業の中では、具体的に「社会的責任」や「倫理観」に関する取り上げていると考えられる。

### ■まとめ

これらの4つの能力の獲得について高評価の授業は、「演習」、「少人数クラス」、「一般教育演習」に分類される授業であることがわかる。科目区分では、一般教育演習が大きく貢献していると考えられる。これらの設問については、今年度試行期間を終え、次年度からは、全科目において回答を依頼する予定である。より詳細に、本学学生の汎用的能力の獲得状況が明らかにされることが期待される。

## 注

1. 新旧設問の対照表は下記の URL を参照。  
<http://www.hokudai.ac.jp/bureau/tenken/hokoku/2008/s1/01.html>
2. 30 分以下=0.25, 1 時間=1, 2 時間=2, 3 時間=3, 4 時間以上=4 (単位: 時間), に変換して計算した。
3. アンケート提出票 (教員用) の授業の形態に関する質問への回答 (1=講義, 2=演習) に基づき分類した。
4. 高等教育機能開発総合センター『センターニュース』第 74 号, 2008, pp.1-5  
参照 URL : <http://socyd.high.hokudai.ac.jp/cnews/74.pdf>
5. 高等教育推進機構『ニュースレター』第 103 号, 2015, pp.10-12  
参照 URL : <http://socyd.high.hokudai.ac.jp/cnews/103.pdf>
6. 文系と理系は、授業担当教員の所属部局で区別している。
7. 北海道大学評価室(2008)「学生による授業アンケート報告書」(平成 19 年度)  
北海道大学評価室(2009)「学生による授業アンケート報告書」(平成 20 年度)  
北海道大学評価室(2010)「学生による授業アンケート報告書」(平成 21 年度)  
北海道大学評価室(2011)「学生による授業アンケート報告書」(平成 22 年度)  
北海道大学高等教育推進機構(2012)「学生による授業アンケート報告書」(平成 23 年度)  
北海道大学高等教育推進機構(2013)「学生による授業アンケート報告書」(平成 24 年度)  
北海道大学高等教育推進機構(2014)「学生による授業アンケート報告書」(平成 25 年度)  
北海道大学高等教育推進機構(2015)「学生による授業アンケート報告書」(平成 26 年度)  
参照 URL :  
<http://www.hokudai.ac.jp/pr/tenken/tenken/self/jugyo/> (平成 23 年度 1 学期期まで)  
<http://educate.academic.hokudai.ac.jp/center/enquete/enquete.htm>  
(平成 23 年度 2 学期以降)

## 2. アンケートの実施方法

### 対象となる授業

平成27年度第1学期及び第2学期に開講された全学教育科目を対象とした。

分析に際し、各授業を以下のように分類した。

- ・授業形態：講義、演習
- ・科目区分：一般教育演習、外国語演習、外国語科目、基礎科目、共通科目、主題別科目、総合科目、日本語科目及び日本事情に関する科目
- ・必修、選択の別
- ・受講登録学生数（クラスサイズ）：25人以下、26～50人、51人～100人、101～200人、201人以上

### 実施方法

各教員が平成27年度に担当している授業科目のうち適当な1つの科目を選択し、授業中にアンケート用紙を配布した。用紙の回収は原則として学生が行い、学務部学務企画課に直接提出する方法とした。

### 設問について

アンケートの設問は、A：「授業内容に関する項目」、B：「授業手法、教員の行動」、C：「受講者の行動」、D：「教育効果」に分類した。

なお、アンケートは、全授業に対して一律の設問及び回答の選択肢であるため、授業固有の項目に関して教員が独自に設定した質問に学生が答えるという形式のアンケートを付加し、担当教員の判断で実施することができるようになっている。

### 追加設問について

全学教育が掲げる教育目標の達成度を検証するため、教養科目（コアカリキュラム）を対象として、従来の授業アンケートの設問に加えて別添の「追加設問」をコアカリキュラムを担当する教員のうちから、前後期各100名程度に協力を依頼し実施した。

4つの追加設問（①コミュニケーション能力、②人間や社会の多様性の理解、③創造的な思考能力と建設的な批判能力、④社会的責任と普遍的な倫理観）の中から担当する授業内容に該当する設問を一つ以上指定し、学生にはその設問のみ回答させた。

### 3. 各教員あて通知内容

#### 集計表

フィードバック用の集計表では、各教員は、自分の授業の総合評点（主要設問について学生が回答した評点の合計を回答学生数（無回答を除く延べ数）で除したもの）で、全学教育平均・講義科目平均・演習科目平均・必修科目平均・選択科目平均と比較することになる。

また、通常の設問項目のほかに、その授業に固有の項目について教員個人が質問を設定した場合には、「追加設問」の欄に5段階の評点が表示される。

各教員あて通知内容										
「平成27年度(第1学期及び第2学期通年)全学教育科目に係る授業アンケート」集計表										
部局名：文学研究科・文学部 授業形態：講義	氏名：●● ●● 科目区分：全学教育科目(主題別科目)	科目名：社会の認識(●●●●●●●●●●) 必修・選択：選択 提出枚数：31 登録学生数：26~50人								
設問内容										
1. シラバスは授業の目標、内容、評価方法を明快に示していた。 2. 授業はシラバスにそって行われていた。 3. 教員の説明はわかりやすかった。 4. 教員の熱意が伝わってきた。 5. 教員の話し方は聞き取りやすかった。 6. 教員は効果的に学生の参加(発言、自主的学習、作業など)を促した。 7. 教員は学生の質問・発言等に適切に対応した。 8. 黒板、教科書、プリントやAV機器等の使われ方が効果的であった。 9. 授業により知識に刺激され、さらに深く勉強したくなつた。 10. 授業は全体として満足できるものであった。	5 (%) 4 (%) 3 (%) 2 (%) 1 (%) 無回答 (%) 5段階評点の平均値	全学教育平均値 講義科目平均値 演習科目平均値 必修科目平均値 選択科目平均値								
11. この授業の自分の出席率は( )%程度であった。 12. 対面、発言、調査、自習などにより、自分はこの授業に積極的に参加した。 13. この授業1回(90分)のための予習・復習に費やした時間は平均( )であった。	平均値 (%)	総合評点*								
* 総合評点：上欄の10個の設問項目について学生が回答した評点の合計を回答学生数(無回答を除く延べ数)で除したもの										
設問内容										
3. 授業で要求される作業量(レポート、課題、予習・復習など)は適切であった。 4. 授業内容の難易度は適切であった。 11. この授業の自分の出席率は( )%程度であった。 12. 対面、発言、調査、自習などにより、自分はこの授業に積極的に参加した。 13. この授業1回(90分)のための予習・復習に費やした時間は平均( )であった。	5 (%) 4 (%) 3 (%) 2 (%) 1 (%) 無回答 (%) 5段階評点の平均値	全学教育平均値 講義科目平均値 演習科目平均値 必修科目平均値 選択科目平均値								
14. シラバスに記載されている到達目標は、( )割程度達成できた。	10 (%) 9 (%) 8 (%) 7 (%) 6 (%) 5 (%) 4 (%) 3 (%) 2 (%) 1 (%) 0 (%) 無回答 (%) 10段階評点の平均値	全学教育平均値 講義科目平均値 演習科目平均値 必修科目平均値 選択科目平均値								
※ 評点については次のとおりとする。 ① 設問1~3、5~10、12、15~16 : 「5・4・3・2・1」は、「強くそう思う・そう思う・どちらともいえない・そうは思わない・強くそう思わない」を意味する。 ② 設問4 : 「5・4・3・2・1」は、「A:極めて難しい・B:難しい・C:適切・D:やさしい・E:極めてやさしい」を意味する。なお、平均値は「C=5・B=4・A=3・E=1」として算出。 ③ 設問11 : 「5・4・3・2・1」は、「A:100%・B:80%・C:60%・D:40%・E:20%」を意味する。 ④ 設問13 : 「5・4・3・2・1」は、「A:4時間以上・B:3時間・C:2時間・D:1時間・E:30分以下」を意味する。 ⑤ 設問14 : 「10・9・8・7・6・5・4・3・2・1・0」は、「10割・9割・8割・7割・6割・5割・4割・3割・2割・1割・0割」を意味する。										
追加設問										
設問内容										
1 コミュニケーション能力 2 人間や社会の多様性の理解 3 創造的な思考能力と建設的な批判能力 4 社会的責任と普遍的な倫理観 5 6 7 8	5 (%) 4 (%) 3 (%) 2 (%) 1 (%) 無回答 (%) 5段階評点の平均値									

依頼した追加設問の評点は次のとおり。  
 「5・4・3・2・1」は、「かなり向上した・少し向上した・どちらともいえない・あまり向上しなかった・向上しなかつた」を意味する。

## 4. アンケート用紙の様式

平成27年12月21日

《部局名》

《氏名》 殿

高等教育推進機構長 新田孝彦

### 全学教育科目に係る授業アンケートの実施について（依頼）

高等教育推進機構では、授業改善を図る目的で学生の意見を授業担当教員にフィードバックしております。

つきましては、別添の封筒に封入されている実施要領を参照の上、平成27年度第2学期の下記授業科目（講義又は演習）の中から一科目を選び、授業アンケートを実施願います。本アンケートは少なくとも1年間に一科目について、授業のなるべく終わりの時期、できれば最後の授業で必ず実施してください。複数科目で実施しても構いません。

アンケート用紙が不足する場合や英語版のアンケート項目が必要な場合は別途送付しますので、下記担当まで連絡願います。

なお、アンケートの集計結果は、実施教員及び所属部局等の長並びに科目責任者に通知します。

また、アンケートの質問項目に対する回答結果及び学生の自由意見を受けて、報告書を提出していただこととしております。提出いただいた報告書の中から、授業改善への効果があると認められるものや他の教員の参考となる事例等を取りまとめ、後日、高等教育推進機構のホームページにて公表する予定です。

おって、平成27年度第2学期実施分の授業アンケートの集計を行い、1年分のデータを合わせて算出した結果を送付する際に、報告書の提出についても、改めて依頼いたしますのでご協力願います。

平成26年度の全学教育科目に係る授業アンケートの結果を受けての報告書は、高等教育推進機構のホームページ([http://educate.academic.hokudai.ac.jp/gakunai/enquete\\_gakunai/enquete\\_report26.pdf](http://educate.academic.hokudai.ac.jp/gakunai/enquete_gakunai/enquete_report26.pdf))に掲載しております。

記

#### 対象となる授業科目（平成27年度第2学期）

時間割番号	科目名	曜日講時
< 678901	△△△演習	火2 >
< 234567	○○○○学I	水1 >
< 890123	++++)学II	水2 >
< 456789	* * * * *	木4 >

※ 封筒に入っている用紙類は下記のとおりです。

- ① 授業アンケートの実施要領（教員用）…緑色
- ② 授業アンケート提出票（教員用）………ピンク色 ※【教員が記入】
- ③ 授業アンケート……………白色（50枚）

# 全学教育科目 授業アンケートの実施要領（教員用）

(アンケートの実施前に必ずお読みください)

この実施要領は、アンケート調査の対象者である当該授業の受講生に、このアンケートの趣旨を理解し、協力してもらうためのものです。事情の許す限り、要領に従ってアンケートを実施してください。

なお、より公正な取扱いを行うため、アンケートの回収、密封、提出は原則として学生に行わせることとしますので、下記の「アンケートの実施方法」を良く読み、学生に適切な指示を行ってください。

## アンケートの実施方法

1. 当該授業のなるべく終わりの時期、できれば最後の授業で実施し、アンケート記入のために最低10分間の時間を確保してください。
2. 教員はアンケートを実施する前に、ピンク色の「アンケート提出票（教員用）」に必要事項を記入し、回収用封筒に入れてください。

なお、アンケート用紙が不足する場合には、学務部（学務企画課教育支援担当 又は 教育推進課全学教育担当）に申し出てください。  
両面コピーで増刷することは構いませんが、以前に配付された古いアンケート用紙は設問が異なるので使用しないでください。
3. アンケート用紙を配布したら、以下のような説明を行ってください。
  - 1) これから、授業アンケート調査を実施します。このアンケートは本学の授業を改善するため毎年行われているもので、それぞれの教員は自分の担当する授業の少なくとも1年間に一つを選択して実施することになっています。本年は、この授業において実施することにいたしましたので、ご協力をお願いします。
  - 2) ここで行われたアンケートの結果は、担当の教員とその教員の所属部局等に送り、次年度以降の授業の改善のために利用されます。将来この科目を履修する学生諸君のためになるもので、与えられた時間を十分に使って、公正で客観的な評価を行ってください。また、裏面の自由記述欄には、できるだけ授業の改善に役に立つようなコメントを書いてください。
  - 3) なお、このアンケートは、公正な取扱いを行うために、受講生の代表が回収し、この場で封をして、高等教育推進機構E棟1階8番窓口に届けてもらいます。教員はこのアンケートの記入・回収の際には講義室を退出しますので、代表として指名された方はよろしくご協力をお願いします。
4. 回収を担当する受講生を2名程度指名の上、回収用封筒表面に記載の「アンケートの回収方法」に従いアンケートを回収し、学務部教育推進課（全学教育担当）（高等教育推進機構E棟1階8番窓口）へ提出するよう指示してください。

ただし、5講時の終了時等で上記の窓口が閉まっている場合は、アンケート終了後、受講生の代表に密封した回収用封筒を研究室に持参させるなど、適宜の方法により教員が受け取り、学内便等により学務部学務企画課（教育支援担当）へ提出してください。（教員が提出する場合や、事情により講義室に残る場合は、その旨学生に説明してください。）
5. 受講生に、記入済みアンケート用紙の提出場所（高等教育推進機構E棟1階8番窓口、代表者、机の上など）を指示し、教員は講義室を退出してください。

【裏面に続く】

## **6. 複数の教員で担当する講義の場合**

授業に複数の教員が参加するチーム担当授業、複数の教員で担当する統合講義又は総合講義形式等となっている場合は、原則として責任教員が授業全体についてアンケートを実施し、その旨学生に説明してください。（責任教員以外の教員が代理で実施する場合でも、アンケート提出票等には責任教員の氏名を記入してください。）

## **7. 追加設問について**

アンケート用紙の「追加設問回答欄」を使用し、授業固有の項目について、独自に設問を設定してアンケートを実施することができます。設問を追加する場合は、そのアンケート内容・回答方式等とともに、全学的に実施するアンケートとは異なる旨学生に説明してください。

ア) 追加できる設問は8問以内です。設問は板書等により学生に提示し、各教員が記録しておいてください。

イ) 各教員へフィードバックする内容は、追加した設問の選択肢「5, 4, 3, 2, 1」の回答の割合です。また、選択肢を「A, B, C, D, E」などに変更しないでください。

上記制限を超えて実施した場合、高等教育推進機構では集計できませんので、あらかじめご承知おきください。

# 全学教育科目 授業アンケート提出票（教員用）

(太線枠内を記入してください)

## 【担当教員】

北海道大学高等教育推進機構

所属部局 コード番号	<input type="text"/>	所属部局のコード番号を下表のコード表により記入してください。 非常勤講師の方は「99」を記入してください。
職名	1 教授    2 准教授    3 講師    4 助教    5 非常勤講師 (該当する番号に○印を付けてください。)	
氏名	(フリガナ )	

## 【アンケートを実施した授業】

授業の形態	1 講義    2 演習    (該当する番号に○印を付けてください。)	授業内容により、 担当教員が判断 してください。	
科目区分	1 主題別科目    2 総合科目    3 一般教育演習 4 共通科目    5 外国語科目    6 外国語演習 7 基礎科目    8 日本語科目及び日本事情に関する科目 (該当する番号に○印を付けてください。)		
必修・選択	1 必修及び選択必修    2 選択    (該当する番号に○印を付けてください。)		
科目名			
時間割番号	〔授業アンケートの実施について(依頼)〕に記載されている6桁の数字を記入してください。	曜日講時	
受講登録 学生数	1 25人以下    2 26~50人    3 51~100人 4 101~200人    5 201人以上	(該当する番号に○印を付けてください。)	

## 【部局コード番号】

番号 : 部局名	番号 : 部局名	番号 : 部局名
01 : 文学研究科	17 : 先端生命科学研究院	33 : 観光学高等研究センター
02 : 教育学研究院	18 : 公共政策学連携研究部	34 : 外国語教育センター
03 : 法学研究科	19 : 北海道大学病院	35 : アイヌ・先住民研究センター
04 : 経済学研究科	20 : 低温科学研究所	36 : 社会科学実験研究センター
05 : 理学研究院	21 : 電子科学研究所	37 : サステイナビリティ学教育研究センター
06 : 医学研究科	22 : 遺伝子病制御研究所	38 : 環境健康科学研究教育センター
07 : 歯学研究科	23 : 触媒化学研究センター	39 : 探索医療教育研究センター
08 : 薬学研究院	24 : スラブ・ユーラシア研究センター	40 : 保健センター
09 : 工学研究院	25 : 情報基盤センター	41 : 産学連携本部
10 : 農学研究院	26 : アイソトープ総合センター	42 : 人材育成本部
11 : 獣医学研究科	27 : 量子集積エレクトロニクス研究センター	43 : 創成研究機構
12 : 水産科学研究院	28 : 総合博物館	44 : 国際本部
13 : メディア・コミュニケーション研究院	29 : 北方生物圏フィールド科学センター	45 : 高等教育推進機構
14 : 保健科学研究院	30 : 脳科学研究教育センター	46 : 安全衛生本部
15 : 情報科学研究院	31 : 人獣共通感染症リサーチセンター	47 : フード&メディカルイノベーション推進本部
16 : 地球環境科学研究院	32 : 大学文書館	99 : 非常勤講師(全学教育科目)

※ 研究科、学部の附属施設に所属する教員は、研究科・学部のコード番号を記載してください。

# 全学教育科目 授業アンケート提出票（教員用）(C)

(太線枠内を記入してください)

## 【担当教員】

北海道大学高等教育推進機構

所属部局 コード番号		所属部局のコード番号を下表のコード表により記入してください。 非常勤講師の方は「99」を記入してください。
職名	1 教授    2 准教授    3 講師    4 助教    5 非常勤講師 (該当する番号に○印を付けてください。)	
氏名	(フリガナ)	

## 【アンケートを実施した授業】

授業の形態	1 講義    2 演習 (該当する番号に○印を付けてください。)	授業内容により、 担当教員が判断 してください。
科目区分	1 主題別科目    2 総合科目    3 一般教育演習 4 共通科目    5 外国語科目    6 外国語演習 7 基礎科目    8 日本語科目及び日本事情に関する科目 (該当する番号に○印を付けてください。)	
必修・選択	1 必修及び選択必修    2 選択 (該当する番号に○印を付けてください。)	
科目名		
時間割番号	「授業アンケートの実施に ついて（依頼）」に記載さ れている6桁の数字を記入 してください。	曜日講時
受講登録 学生数	1 25人以下    2 26～50人    3 51～100人 4 101～200人    5 201人以上 (該当する番号に○印を付けてください。)	

## 【回答するよう指示した追加設問】

1 追加設問1 「コミュニケーション能力」	学生に対し、回答するよう 指示した追加設問の番号に ○印を付けてください。
2 追加設問2 「人間や社会の多様性の理解」	
3 追加設問3 「創造的な思考能力と建設的な批判能力」	
4 追加設問4 「社会的責任と普遍的な倫理観」	<input type="checkbox"/> 担当授業分について、 □ 追加設問の集計結果 の開示を希望する。

## 【部局コード番号】

番号：部局名	番号：部局名	番号：部局名
01：文学研究科	17：先端生命科学研究院	33：観光学高等研究センター
02：教育学研究院	18：公共政策学連携研究部	34：外国語教育センター
03：法学研究科	19：北海道大学病院	35：アイヌ・先住民研究センター
04：経済学研究科	20：低温科学研究所	36：社会科学実験研究センター
05：理学研究院	21：電子科学研究所	37：サステイナビリティ学教育研究センター
06：医学研究科	22：遺伝子病制御研究所	38：環境健康科学研究教育センター
07：歯学研究科	23：触媒化学研究センター	39：探索医療教育研究センター
08：薬学研究院	24：スラブ・ユーラシア研究センター	40：保健センター
09：工学研究院	25：情報基盤センター	41：産学連携本部
10：農学研究院	26：アイソotope総合センター	42：人材育成本部
11：獣医学研究科	27：量子集積エレクトロニクス研究センター	43：創成研究機構
12：水産科学研究院	28：総合博物館	44：国際本部
13：メディア・コミュニケーション研究院	29：北方生物圏フィールド科学センター	45：高等教育推進機構
14：保健科学研究院	30：脳科学研究教育センター	46：安全衛生本部
15：情報科学研究科	31：人獣共通感染症リサーチセンター	47：フード&メディカルイノベーション推進本部
16：地球環境科学研究院	32：大学文書館	99：非常勤講師（全学教育科目）

※ 研究科、学部の附属施設に所属する教員は、研究科・学部のコード番号を記載してください。

# 全学教育科目 授業アンケート

北海道大学高等教育推進機構

このアンケートは、授業改善を目的として実施するものです。あなたの意見は今後の授業改善に生かされますので、率直で建設的な回答をお願いします。アンケートの回答によりあなたが不利益を被ることはありません。

設問は全てで16問あります。裏面には自由記述欄がありますので、この授業やアンケートに対する意見を述べてください。アンケート記入後は、授業担当教員の指示に従って提出願います。

この授業（講義・演習）について、以下の各設問に対してどう考えますか。

それぞれについて、該当するものを1つ選んで数字又はアルファベットに○を付けてください。

5 4 3 2 1 の評点は、「5：強くそう思う、4：そう思う、3：どちらともいえない、2：そうは思わない、1：強くそう思わない」の順とします。ただし、設問の4, 11, 13, 14については、各設問に「」書きで付記している評点基準とします。

- |  |           |   |
|--|-----------|---|
| 1 シラバスは、授業の目標、内容、評価方法を明快に示していた。  | 5 4 3 2 1 | ① |
| 2 授業はシラバスにそって行われていた。   | 5 4 3 2 1 | ② |
| 3 授業で要求される作業量（レポート、課題、予習・復習など）は適切であった。   | 5 4 3 2 1 | ③ |
| 4 授業内容の難易度は適切であった。<br>「A:極めて難しい、B:難しい、C:適切、D:やさしい、E:極めてやさしい」                     | A B C D E | ④ |
| 5 教員の説明はわかりやすかった。  | 5 4 3 2 1 | ⑤ |
| 6 教員の熱意が伝わってきた。  | 5 4 3 2 1 | ⑥ |
| 7 教員の話し方は聞き取りやすかった。  | 5 4 3 2 1 | ⑦ |
| 8 教員は効果的に学生の参加（発言、自主的学習、作業など）を促した。   | 5 4 3 2 1 | ⑧ |
| 9 教員は学生の質問・発言等に適切に対応した。  | 5 4 3 2 1 | ⑨ |
| 10 黒板、教科書、プリントやAV機器等の使われ方が効果的であった。   | 5 4 3 2 1 | ⑩ |
| 11 この授業の自分の出席率は（ ）%程度であった。<br>「A:100, B: 80, C: 60, D:40, E:20」                  | A B C D E | ⑪ |
| 12 質問、発言、調査、自習などにより、自分はこの授業に積極的に参加した。  | 5 4 3 2 1 | ⑫ |
| 13 この授業1回(90分)のための予習・復習に費やした時間は平均（ ）であった。<br>「A:4時間以上、B:3時間、C:2時間、D:1時間、E:30分以下」 | A B C D E | ⑬ |
| 14 シラバスに記載されている到達目標は、（ ）割程度達成できた。<br>「回答欄に0～10の数値を記入してください」                      | □ □ 割     | ⑭ |
| 15 授業により知的に刺激され、さらに深く勉強したくなった。   | 5 4 3 2 1 | ⑮ |
| 16 授業は全体として満足できるものであった。  | 5 4 3 2 1 | ⑯ |

【追加設問回答欄】 以下の1から8の欄は、教員から、設問を追加する旨指示があった場合のみ回答してください。

追加設問 1	5 4 3 2 1
追加設問 2	5 4 3 2 1
追加設問 3	5 4 3 2 1
追加設問 4	5 4 3 2 1

追加設問 5	5 4 3 2 1
追加設問 6	5 4 3 2 1
追加設問 7	5 4 3 2 1
追加設問 8	5 4 3 2 1

裏面に自由記述欄を設けていますのでこの授業やアンケートに対する意見を書いてください。（裏面に続く）

## 自由記述欄

この授業で良かったと思う点について書いてください。

（This is a large rectangular box for writing responses to the question above, divided into four horizontal sections by dashed lines.)

この授業で改善した方が良いと思う点について書いてください。

（This is a large rectangular box for writing responses to the question above, divided into four horizontal sections by dashed lines.)

その他、気づいたことがありましたら書いてください。

（This is a large rectangular box for writing responses to the question above, divided into four horizontal sections by dashed lines.)

授業アンケートの実施方法や設問内容などについて、意見がありましたら書いてください。

（This is a large rectangular box for writing responses to the question above, divided into four horizontal sections by dashed lines.)

# 平成27年度（第2学期） 全学教育科目 授業アンケート回収用封筒

## 【受講生の代表の方へ】

このアンケート調査は本学の授業を改善するために毎年行っているものです。

より公正な取扱いを行うため、アンケートの回収等は学生の皆さん自身に行っていただいています。

お手数をおかけしますが、よろしくご協力をお願いします。

### アンケートの回収方法

1. 当封筒に、ピンク色の「授業アンケート提出票（教員用）」が入っていることを確認してください。（入っていない場合は教員に確認してください。）
2. 受講生から、記入の終わったアンケート用紙を回収し、当封筒に入れ密封してください。
3. 当封筒を、下記のいずれかの窓口に提出してください。  
① 学務部教育推進課（全学教育担当）（高等教育推進機構E棟1階8番窓口）  
② 各学部・研究所等の教務担当  
※ 5講時の終了時には、上記の窓口が閉まっている場合がありますので、その場合の提出方法については教員の指示を受けてください。

【問い合わせ先】学務部学務企画課（教育支援担当） TEL : 011-706-5567

(学内便)

④(1) 学務部学務企画課（教育支援担当） 行

授業担当教員記入欄（必ずご記入ください）

所属部局名 (School / Institution)	
氏 名 (Name)	
科 目 名 (Course Title)	

## 5. 調査対象の解析

### アンケートの依頼・実施者数（平成27年度）

部局等名 (授業を担当する教員がいる部局)	教員数 (H27.5.1)	担当 教員数	実施 教員数	回収数			実施率 (実施教員数/ 担当教員数)	回収率 (実施授業数/ 担当教員数)
				実施 授業数	アンケー ト枚数	追加設問 実施枚数		
文学研究科・文学部	99	92 (6)	69	76	3,555	1,300	75.00%	82.61%
法学研究科・法学部	65	26 (2)	20	21	1,012	47	76.92%	80.77%
経済学研究科・経済学部	48	26	22	23	825	133	84.62%	88.46%
医学研究科・医学部	153	10	6	7	195		60.00%	70.00%
歯学研究科・歯学部	87	8 (1)	7	7	726	367	87.50%	87.50%
獣医学研究科・獣医学部	50	6	6	6	227		100.00%	100.00%
情報科学研究所	94	25	18	18	1,016	264	72.00%	72.00%
水産科学院・水産科学研究院・水産学部	78	9	9	9	476	129	100.00%	100.00%
環境科学院・地球環境科学研究院	54	26 (2)	24	28	1,427	15	92.31%	107.69%
理学院・理学研究院・理学部	203	122 (9)	105	132	7,198	324	86.07%	108.20%
薬学研究院・薬学部	53	10 (1)	9	9	469	11	90.00%	90.00%
農学院・農学研究院・農学部	122	23 (2)	16	16	528	71	69.57%	69.57%
生命科学院・先端生命科学研究院	29	7 (1)	7	7	390	55	100.00%	100.00%
教育学院・教育学研究院・教育学部	41	14 (2)	12	13	669	47	85.71%	92.86%
国際広報メディア・観光学院・メディア・コミュニケーション研究院	50	63 (13)	47	146	3,847	935	74.60%	231.75%
保健科学院・保健科学研究院	75	7	6	6	186	20	85.71%	85.71%
工学院・工学研究院・工学部	278	43 (1)	36	36	1,614	443	83.72%	83.72%
公共政策学教育部・公共政策学連携研究部	21	5	5	5	179	27	100.00%	100.00%
低温科学研究所	48	6	6	6	208	94	100.00%	100.00%
電子科学研究所	45	10 (1)	10	10	353	12	100.00%	100.00%
遺伝子病制御研究所	30	6	6	6	279	20	100.00%	100.00%
触媒化学研究センター	22	3	3	5	216		100.00%	166.67%
スラブ・ユーラシア研究センター	15	2	2	2	35		100.00%	100.00%
情報基盤センター	14	5	3	5	268	102	60.00%	100.00%
人獣共通感染症リサーチセンター	16	1	1	1	45		100.00%	100.00%
アイソトープ総合センター	3	1	1	1	28		100.00%	100.00%
北方生物圏フィールド科学センター	43	12 (1)	9	12	312	111	75.00%	100.00%
観光学高等研究センター	4	3	1	1	64	64	33.33%	33.33%
アイヌ・先住民研究センター	7	3	2	2	149	149	66.67%	66.67%
総合博物館	8	2	2	3	90	67	100.00%	150.00%
保健センター	3	1	1	1	113		100.00%	100.00%
創成研究機構	2	2 (2)	2	2	42		100.00%	100.00%
国際本部	19	11 (2)	11	26	455	136	100.00%	236.36%
高等教育推進機構	10	10 (3)	10	13	367	143	100.00%	130.00%
本学教員小計	1,889	600 (49)	494	661	27,563	5,086	82.33%	110.17%
非常勤講師小計	105	105	74	117	4,242		70.48%	111.43%
合計	1,994	705 (49)	568	778	31,805	5,086	80.57%	110.35%

※ 教員数は、平成27年5月1日現在の在籍数。

※ 担当教員数のかっこ内は、特任教員数で内数。また、非常勤講師は、平成27年度に全学教育科目の授業を担当した実数。

※ 担当教員数（全学教育科目授業を担当した教員）及び実施教員数（授業アンケートを提出した教員）は実数。授業アンケート実施後に所属を異動した場合でも、授業アンケート実施当時の所属でカウント。

※ 回収率は、授業数（同一教員が複数の授業についてアンケートを実施した場合を含む）を担当教員数で除したもので、担当教員あたりの延べ実施率。

### (参考) 平成26年度実績

部局等名	教員数	担当 教員数	実施 教員数	回収数			実施率 (実施教員数/ 担当教員数)	回収率 (実施授業数/ 担当教員数)
				実施 授業数	アンケー ト枚数	追加設問 実施枚数		
本学教員小計	1,892	593	445	599	24,220	5,394	75.04%	101.01%
非常勤講師小計	112	112	88	125	4,565		78.57%	111.61%
合計	2,004	705	533	724	28,785	5,394	75.60%	102.70%

## 6. アンケート結果と解析

### 授業の総合評価

総合評点は、設問 1～2, 5～10, 15～16 の選択肢を評点とし、平均したものである。また、アンケート対象を全学教育科目に絞り、科目を「外国語」「講義科目」「演習科目」「必修科目」「選択科目」に分類した。その結果、総合評点は、以下のようになった。なお、表中では 1 学期を「前」、2 学期を「後」と表記している。

	24 前・後	25 前・後	26 前・後	27 前・後
全学教育全体	4.01	4.03	4.04	4.04
外 国 語	4.23	4.30	4.29	4.28
講 義 科 目	3.96	3.98	3.98	3.98
演 習 科 目	4.32	4.34	4.38	4.36
必 修 科 目	3.95	3.97	3.92	3.93
選 択 科 目	4.06	4.10	4.18	4.15

※図および表中の数値について

図および表中の数値は最小桁についての四捨五入で表している。このため、表示桁数の違いで値が異なることや、個々のデータの和が合計値と異なることがある。

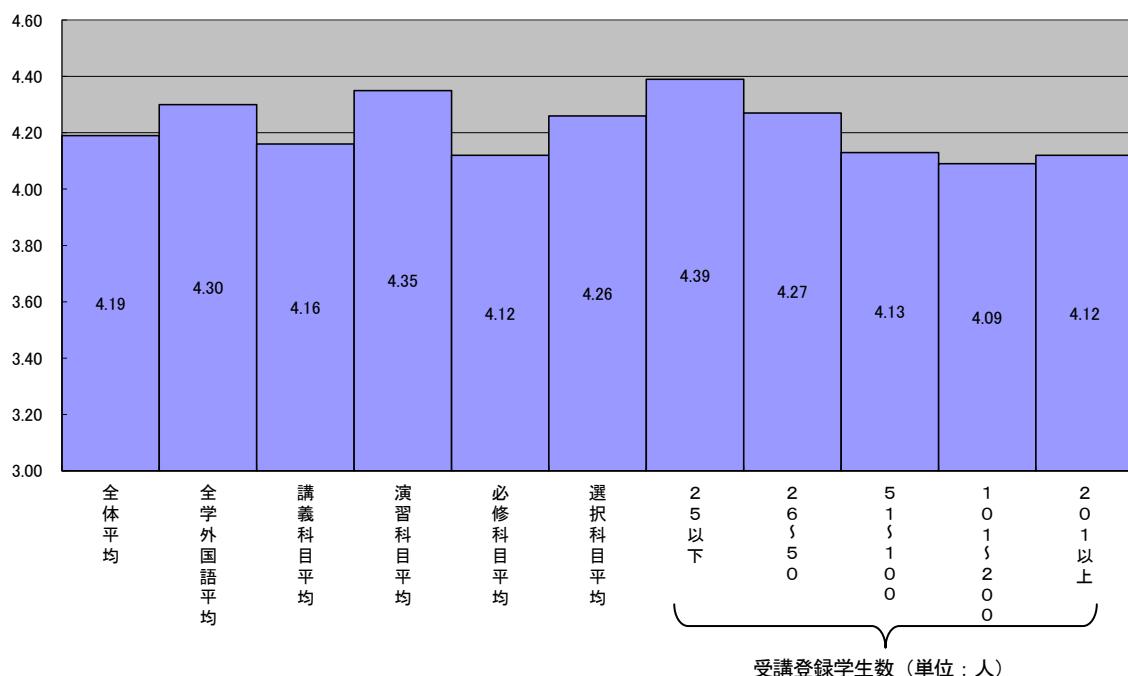
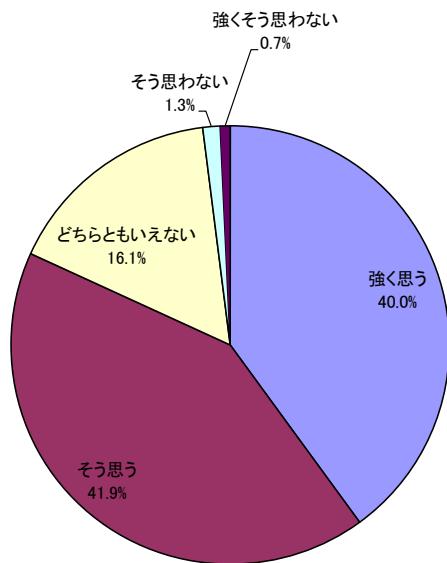
## A 授業内容に関する項目

### 設問1 シラバスは、授業の目標、内容、評価方法を明快に示していた。

円グラフ：今年度（平成26年度1学期と2学期）の回答比率（無回答を除く）を表す（以下各設問同様）。

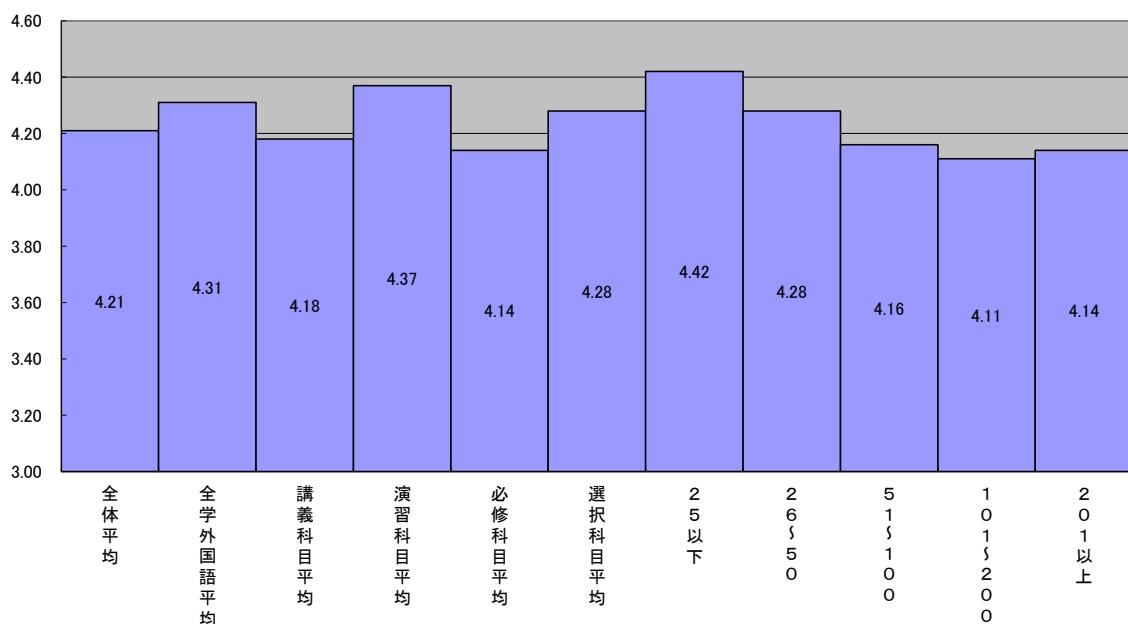
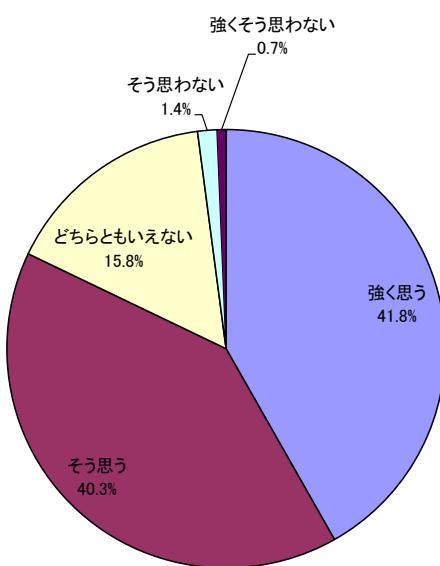
棒グラフ：この設問について、各分類における評点の平均値を表す（以下各設問同様）。

	そう思う (評点の4と5の合計)				そうは思わない (評点の1と2の合計)			
	24前・後	25前・後	26前・後	27前・後	24前・後	25前・後	26前・後	27前・後
全学教育全体	79.4%	80.6%	81.6%	81.8%	2.2%	1.9%	2.2%	2.0%
外 国 語	84.5%	86.6%	86.8%	86.5%	1.5%	0.9%	1.4%	1.3%
講 義 科 目	78.2%	79.6%	80.2%	80.6%	2.3%	2.1%	2.4%	2.2%
演 習 科 目	86.3%	86.4%	89.3%	87.7%	1.5%	1.1%	1.3%	1.2%
必 修 科 目	76.7%	78.8%	77.5%	78.7%	2.2%	2.0%	2.9%	2.1%
選 択 科 目	81.5%	82.4%	86.0%	85.0%	2.2%	1.8%	1.5%	1.9%



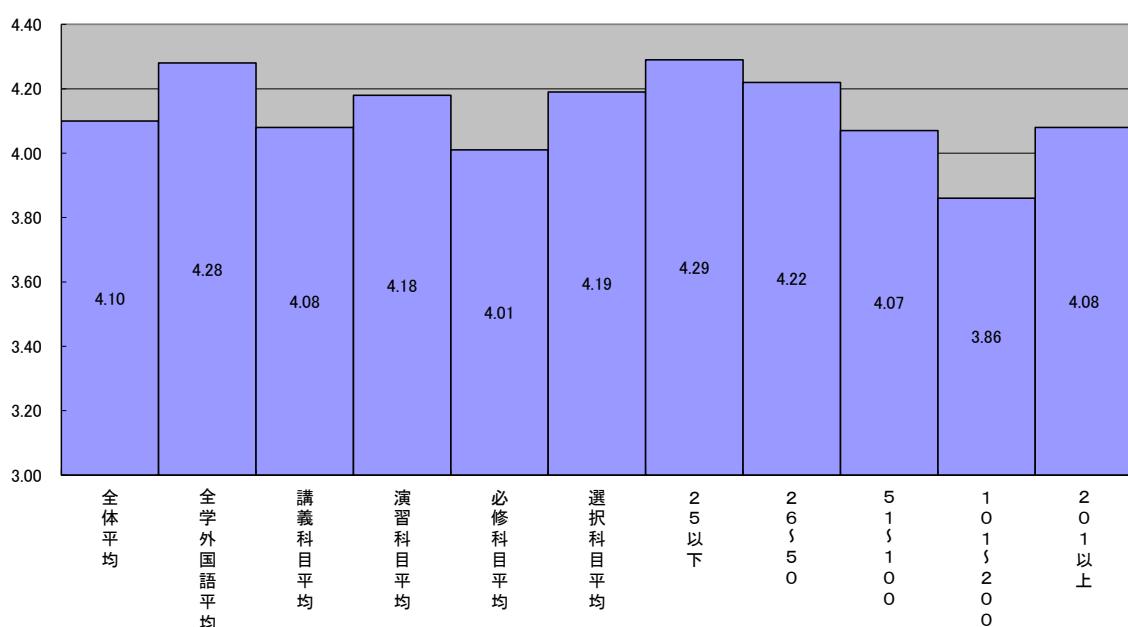
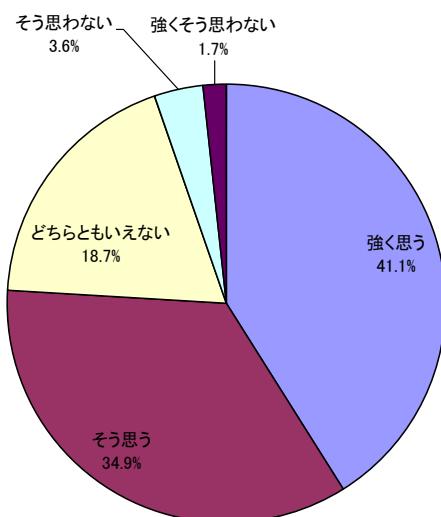
設問2 授業はシラバスにそって行われていた。

	そう思う (評点の4と5の合計)				そうは思わない (評点の1と2の合計)			
	24前・後	25前・後	26前・後	27前・後	24前・後	25前・後	26前・後	27前・後
	79.7%	81.1%	81.7%	82.1%	2.1%	1.9%	2.3%	2.1%
全学教育全体	79.7%	81.1%	81.7%	82.1%	2.1%	1.9%	2.3%	2.1%
外 国 語	84.5%	86.9%	87.4%	86.3%	1.4%	0.9%	1.1%	1.5%
講 義 科 目	78.7%	80.1%	80.2%	81.0%	2.2%	2.0%	2.5%	2.2%
演 習 科 目	85.8%	86.4%	89.6%	87.6%	1.6%	1.1%	1.1%	1.5%
必 修 科 目	77.2%	79.3%	78.0%	79.4%	2.2%	2.0%	3.0%	2.4%
選 択 科 目	81.7%	82.7%	85.5%	85.0%	2.0%	1.7%	1.5%	1.8%



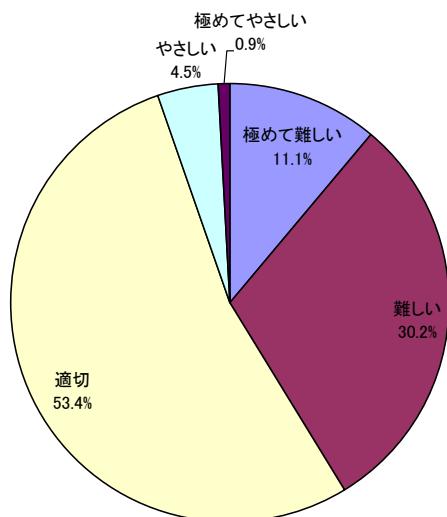
設問3 授業で要求される作業量（レポート、宿題、自習など）は適切であった。

	そう思う (評点の4と5の合計)				そうは思わない (評点の1と2の合計)			
	24前・後	25前・後	26前・後	27前・後	24前・後	25前・後	26前・後	27前・後
全学教育全体	74.4%	74.3%	75.2%	76.0%	5.6%	6.0%	5.9%	5.3%
外 国 語	80.8%	82.6%	82.3%	83.5%	5.2%	4.6%	4.3%	3.5%
講 義 科 目	73.3%	73.7%	74.4%	75.2%	5.7%	5.6%	5.8%	5.0%
演 習 科 目	80.8%	78.0%	79.9%	79.7%	4.9%	7.7%	6.3%	6.9%
必 修 科 目	72.3%	72.7%	71.7%	72.7%	6.8%	7.3%	8.0%	7.0%
選 択 科 目	76.1%	75.8%	78.9%	79.3%	4.6%	4.7%	3.7%	3.6%

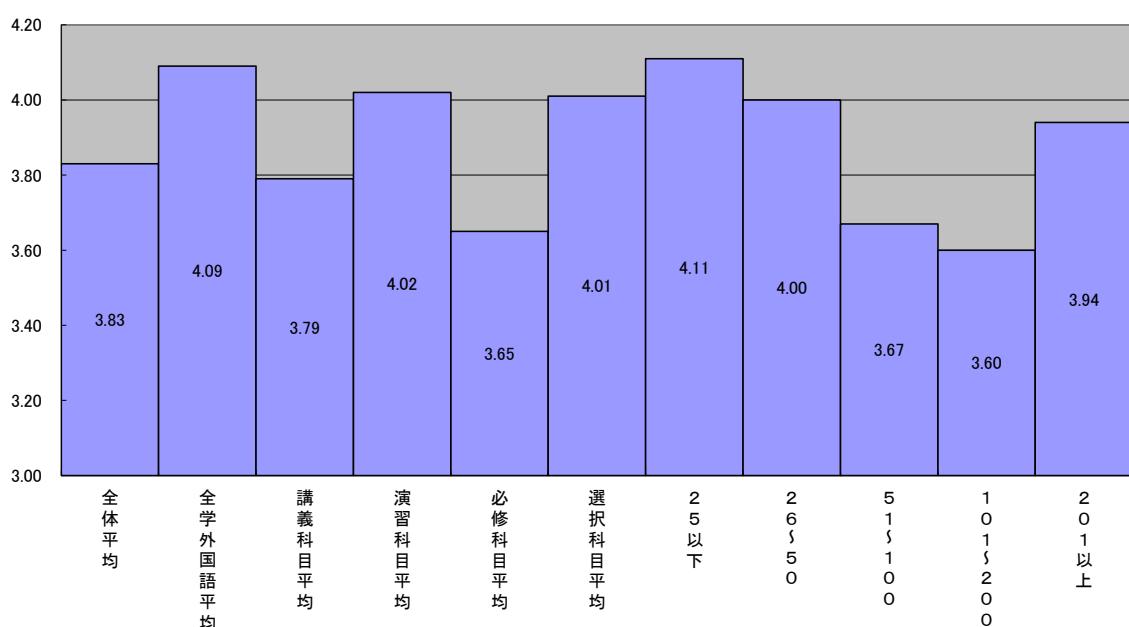


設問4 授業内容の難易度は適切であった。

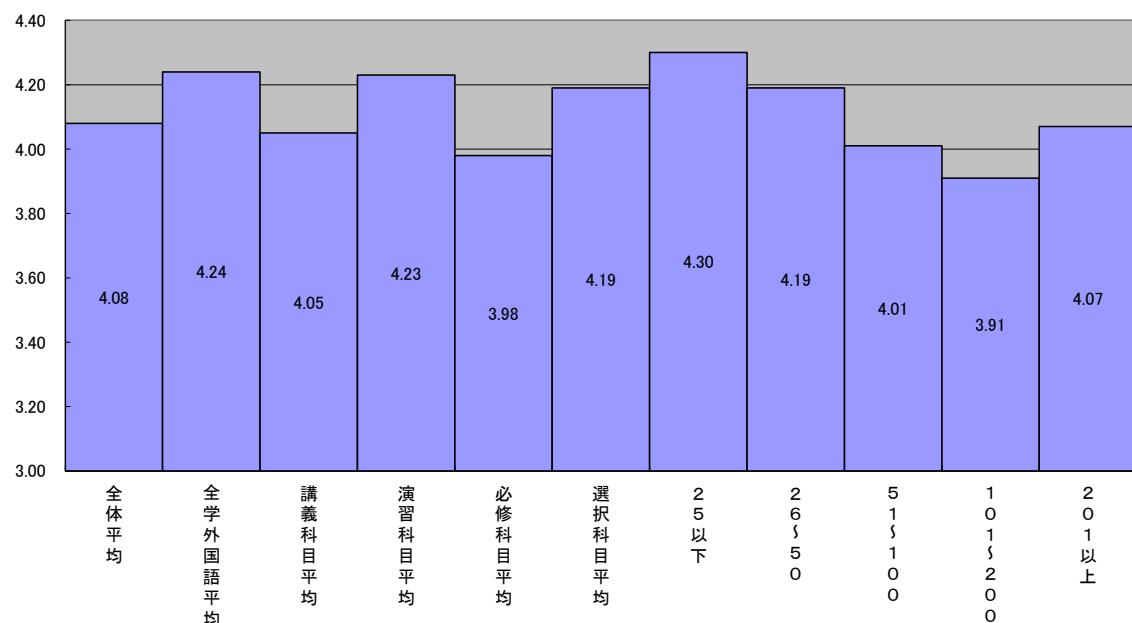
	24前・後	25前・後	26前・後	27前・後
極めて難しい	10.9%	10.1%	10.8%	11.1%
難しい	30.1%	30.2%	30.7%	30.2%
適切	52.4%	53.8%	53.0%	53.4%
やさしい	5.6%	5.1%	4.7%	4.5%
極めてやさしい	1.0%	0.9%	0.9%	0.9%



	極めてやさしい 極めて難しい (評点 A と E の合計)				やさしい 難しい (評点 B と D の合計)				適切 (評点 C)				
	24前・後	25前・後	26前・後	27前・後	24前・後	25前・後	26前・後	27前・後	24前・後	25前・後	26前・後	27前・後	
	全学教育全体	11.9%	10.9%	11.7%	12.0%	35.7%	35.3%	35.3%	34.6%	52.3%	53.8%	53.0%	53.4%
外 国 語	8.1%	6.9%	7.1%	7.4%	33.2%	31.7%	30.9%	30.9%	58.6%	61.4%	62.0%	61.7%	
講 義 科 目	12.3%	11.4%	12.4%	12.7%	35.9%	35.3%	35.8%	35.1%	51.7%	53.3%	51.8%	52.2%	
演 習 科 目	9.7%	8.1%	7.7%	8.3%	34.0%	35.3%	32.7%	32.3%	56.3%	56.6%	59.6%	59.4%	
必 修 科 目	13.7%	13.0%	14.2%	14.8%	37.4%	38.0%	38.5%	37.9%	48.9%	49.1%	47.3%	47.3%	
選 択 科 目	10.5%	9.0%	9.0%	9.1%	34.3%	32.6%	32.0%	31.3%	55.1%	58.4%	59.0%	59.7%	

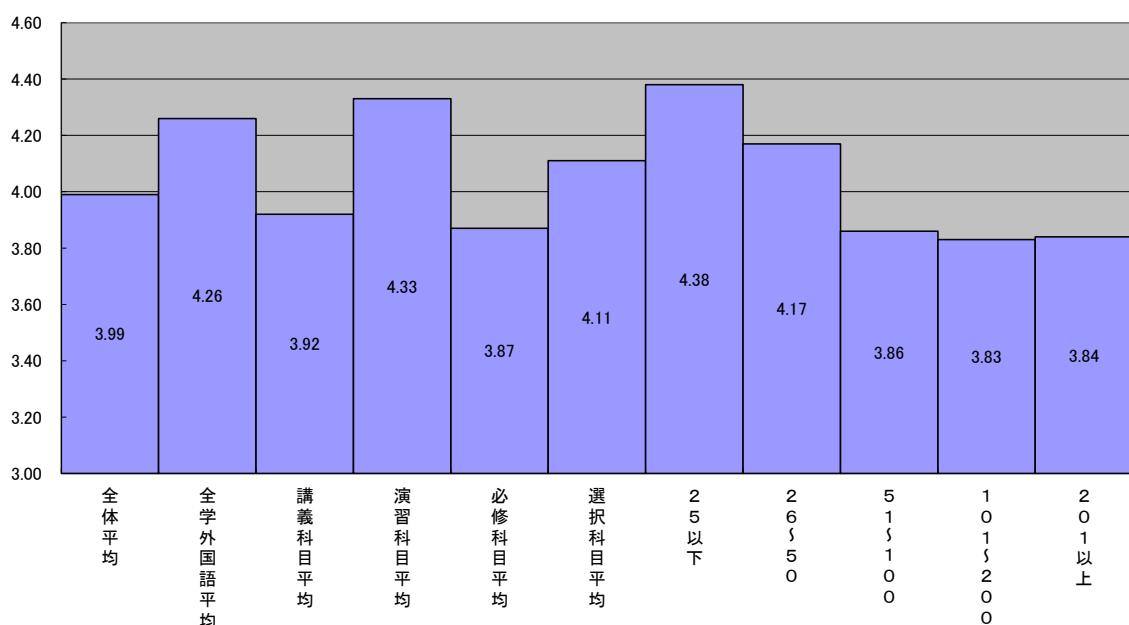
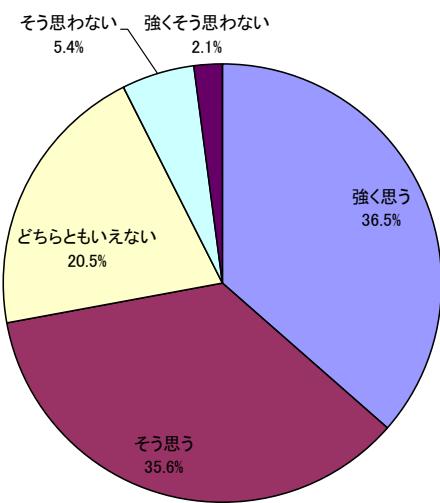


【設問 1～4 の合計】



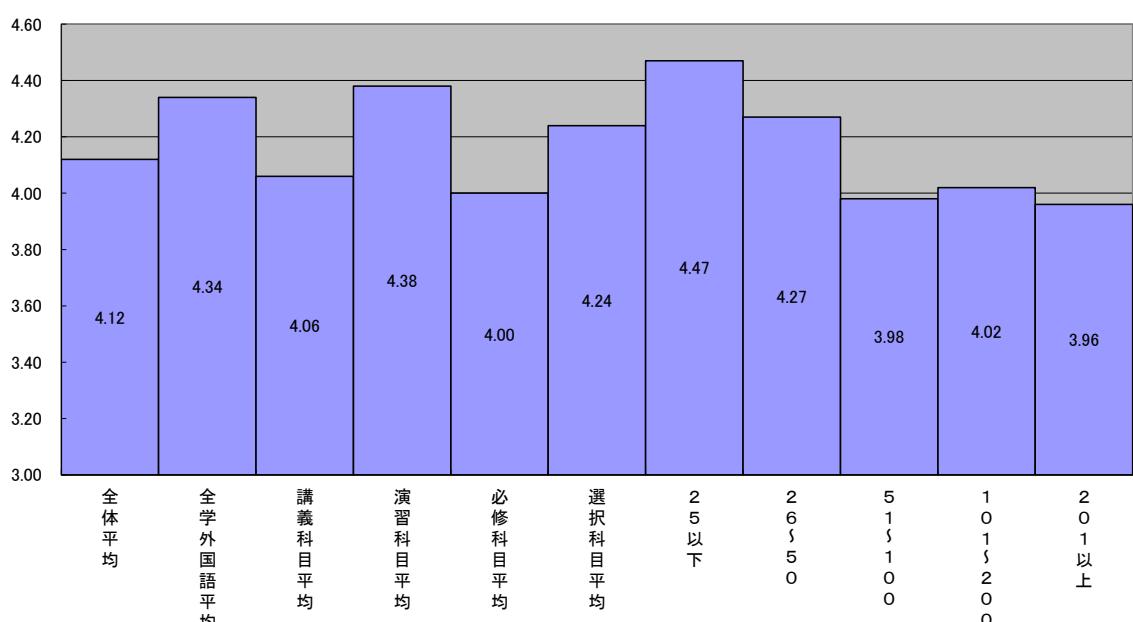
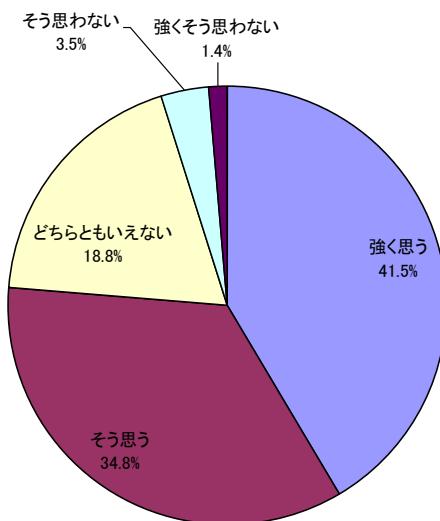
設問5 教員の説明はわかりやすかった。

	そう思う (評点の4と5の合計)				そうは思わない (評点の1と2の合計)			
	24前・後	25前・後	26前・後	27前・後	24前・後	25前・後	26前・後	27前・後
	全学教育全体	外 国 語	講 義 科 目	演 習 科 目	必 修 科 目	選 択 科 目		
71.1%	72.1%	72.8%	72.1%	8.3%	7.9%	7.8%	7.5%	
80.2%	84.5%	83.7%	83.2%	4.6%	3.3%	3.8%	3.4%	
69.2%	70.0%	70.3%	69.4%	9.0%	8.7%	8.8%	8.4%	
82.1%	84.3%	86.4%	85.1%	3.9%	3.3%	2.4%	2.8%	
68.6%	69.2%	67.0%	67.3%	10.2%	10.1%	11.2%	10.1%	
73.1%	74.9%	78.8%	77.0%	6.7%	5.7%	4.2%	4.8%	



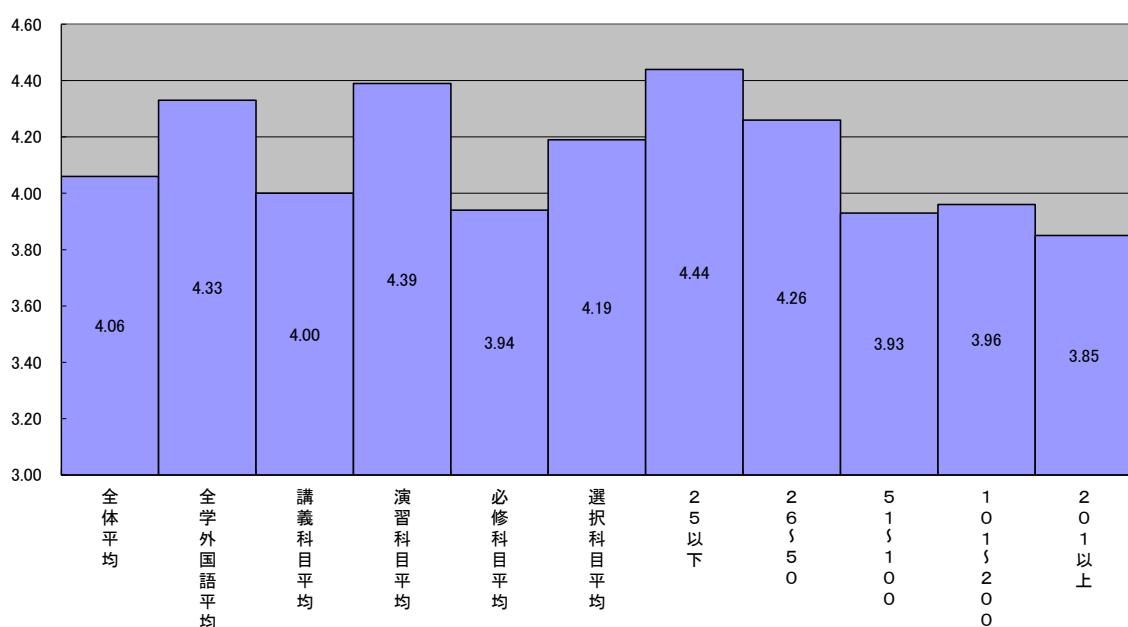
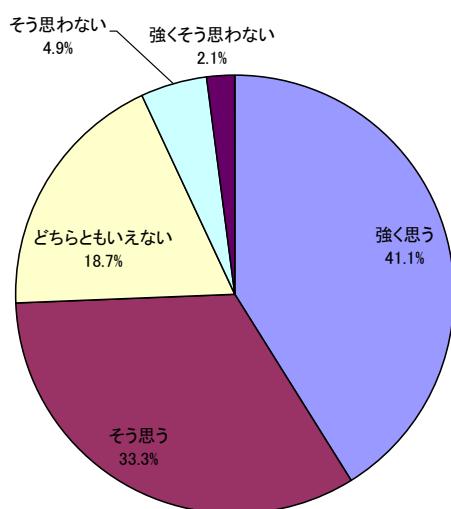
設問6 教員の熱意が伝わってきた。

	そう思う (評点の4と5の合計)				そうは思わない (評点の1と2の合計)			
	24前・後	25前・後	26前・後	27前・後	24前・後	25前・後	26前・後	27前・後
全学教育全体	75.4%	75.9%	76.3%	76.3%	5.2%	5.0%	5.3%	4.9%
外 国 語	84.2%	86.7%	86.0%	85.6%	2.6%	1.9%	2.3%	2.4%
講 義 科 目	73.7%	74.3%	74.5%	74.3%	5.7%	5.4%	5.9%	5.4%
演 習 科 目	85.5%	85.0%	86.6%	85.8%	2.2%	2.4%	2.0%	2.2%
必 修 科 目	72.0%	72.5%	70.7%	71.6%	6.8%	6.5%	7.9%	6.7%
選 択 科 目	78.2%	79.2%	82.2%	81.1%	4.0%	3.5%	2.5%	3.0%



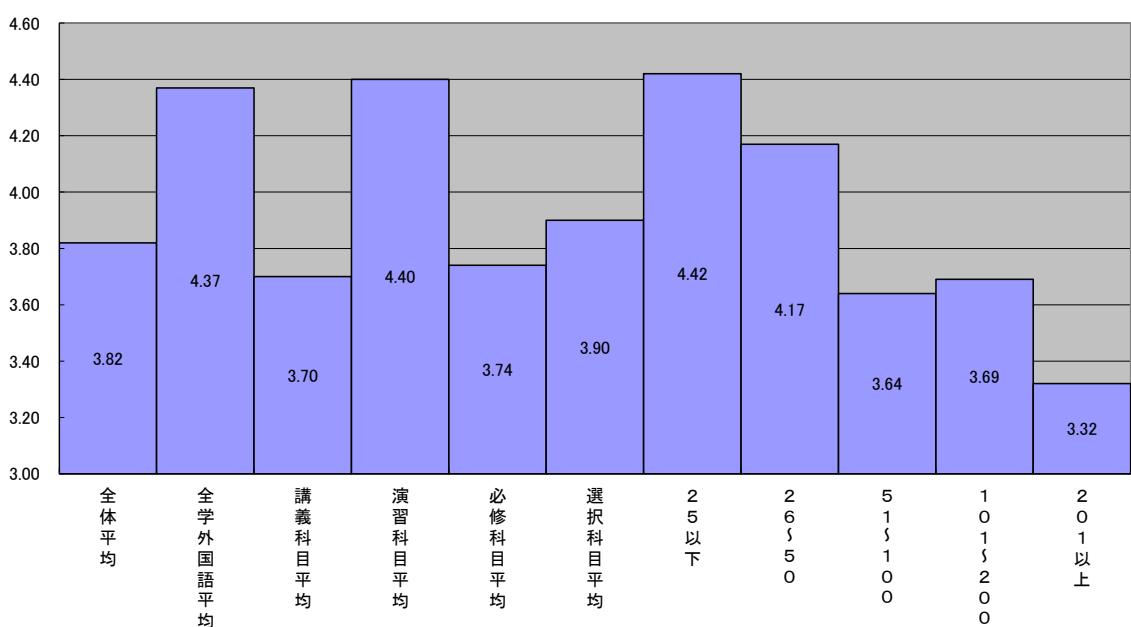
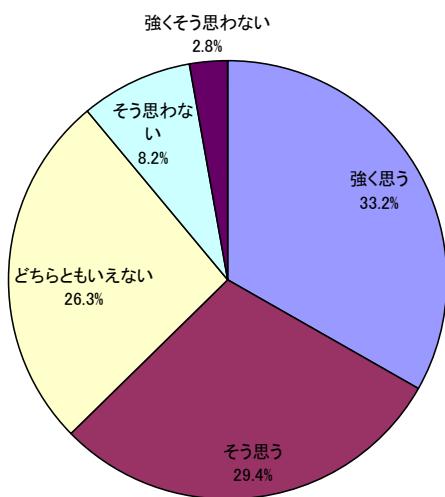
設問7 教員の話し方は聞き取りやすかった。

	そう思う (評点の4と5の合計)				そうは思わない (評点の1と2の合計)			
	24前・後	25前・後	26前・後	27前・後	24前・後	25前・後	26前・後	27前・後
全学教育全体	72.9%	74.7%	76.3%	74.4%	7.8%	6.6%	5.3%	7.0%
外 国 語	81.1%	85.4%	86.0%	84.7%	5.0%	3.1%	2.3%	3.5%
講 義 科 目	71.2%	72.7%	74.5%	71.9%	8.5%	7.3%	5.9%	7.9%
演 習 科 目	82.7%	86.2%	86.6%	86.5%	4.2%	2.5%	2.0%	2.4%
必 修 科 目	71.0%	71.8%	70.7%	69.5%	9.0%	8.3%	7.9%	9.7%
選 択 科 目	74.3%	77.5%	82.2%	79.4%	6.9%	4.9%	2.5%	4.2%



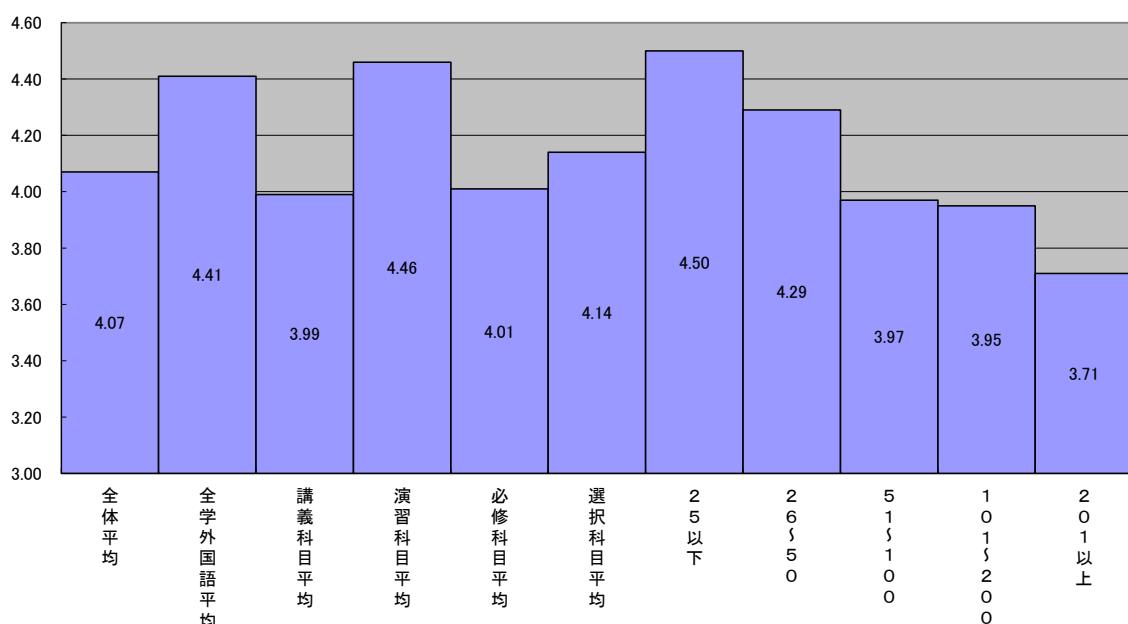
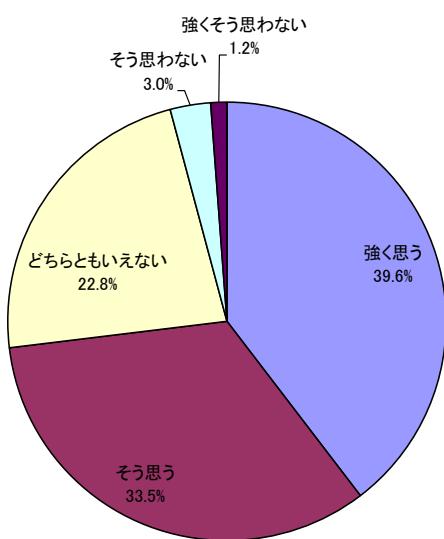
設問8 教員は効果的に学生の参加（発言、自主的学習、作業など）を促した。

	そう思う (評点の4と5の合計)				そうは思わない (評点の1と2の合計)			
	24前・後	25前・後	26前・後	27前・後	24前・後	25前・後	26前・後	27前・後
全学教育全体	59.6%	60.9%	63.2%	62.6%	12.2%	11.2%	10.9%	11.0%
外 国 語	83.9%	86.1%	86.9%	85.2%	2.5%	1.9%	2.4%	2.4%
講 義 科 目	55.5%	56.7%	59.0%	57.9%	13.8%	12.7%	12.5%	12.8%
演 習 科 目	83.8%	84.2%	86.5%	86.0%	2.8%	3.0%	2.3%	2.4%
必 修 科 目	60.5%	62.4%	60.6%	59.8%	11.9%	10.6%	12.2%	12.2%
選 択 科 目	59.0%	59.5%	66.0%	65.6%	12.4%	11.9%	9.4%	9.9%



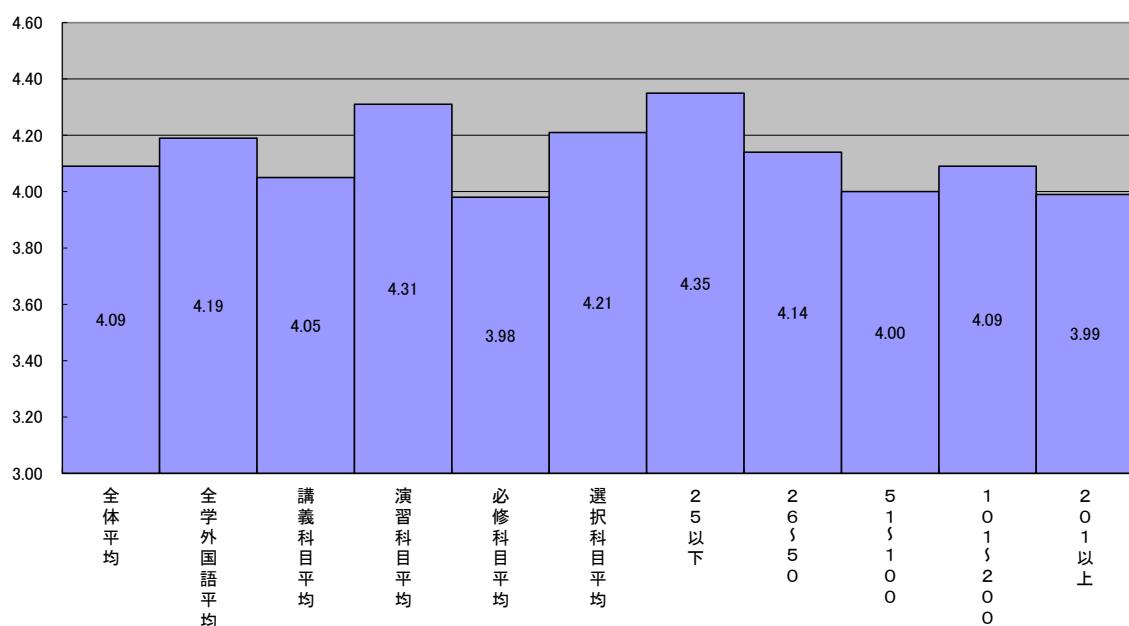
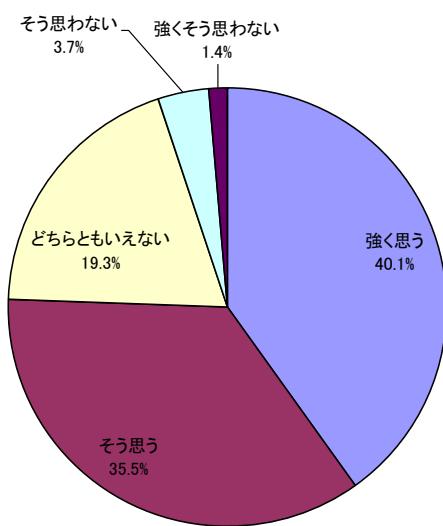
設問9 教員は学生の質問・発言等に適切に対応した。

	そう思う (評点の4と5の合計)				そうは思わない (評点の1と2の合計)			
	24前・後	25前・後	26前・後	27前・後	24前・後	25前・後	26前・後	27前・後
全学教育全体	72.9%	72.8%	73.3%	73.1%	4.2%	4.3%	4.5%	4.2%
外 国 語	84.7%	87.3%	87.7%	87.5%	1.8%	1.2%	1.4%	1.4%
講 義 科 目	70.5%	69.9%	70.2%	69.8%	4.7%	4.8%	5.1%	4.8%
演 習 科 目	87.0%	88.8%	89.8%	89.1%	1.6%	1.2%	1.2%	1.3%
必 修 科 目	73.3%	73.3%	71.0%	71.0%	4.1%	4.6%	5.5%	4.8%
選 択 科 目	72.6%	72.2%	75.6%	75.2%	4.3%	4.0%	3.4%	3.6%

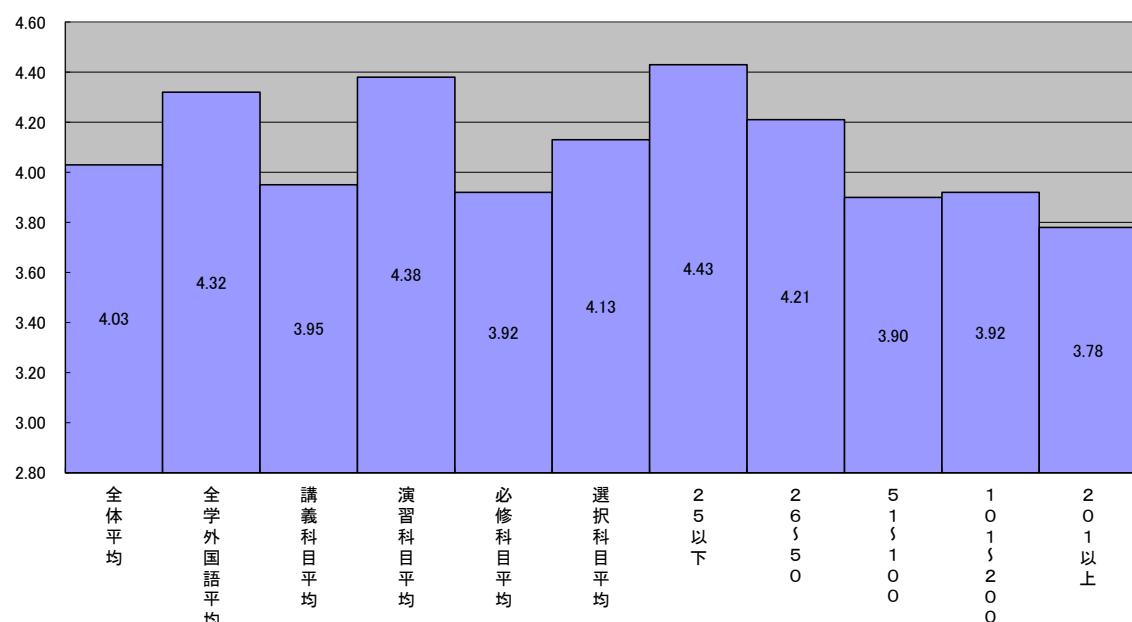


設問10 黒板、教科書、プリントやAV機器等の使われ方が効果的であった。

	そう思う (評点の4と5の合計)				そうは思わない (評点の1と2の合計)			
	24前・後	25前・後	26前・後	27前・後	24前・後	25前・後	26前・後	27前・後
	全学教育全体	外 国 語	講 義 科 目	演 習 科 目	必 修 科 目	選 択 科 目		
71.7%	73.9%	75.0%	75.6%	6.4%	5.9%	5.6%	5.1%	
75.0%	78.1%	79.2%	78.8%	4.1%	3.3%	3.0%	3.0%	
70.7%	72.6%	73.4%	73.9%	6.8%	6.5%	6.2%	5.8%	
77.4%	81.3%	83.8%	83.5%	3.7%	2.6%	2.2%	2.0%	
67.9%	69.7%	68.9%	70.9%	7.8%	7.7%	8.0%	6.8%	
74.7%	78.0%	81.4%	80.4%	5.3%	4.1%	3.0%	3.4%	



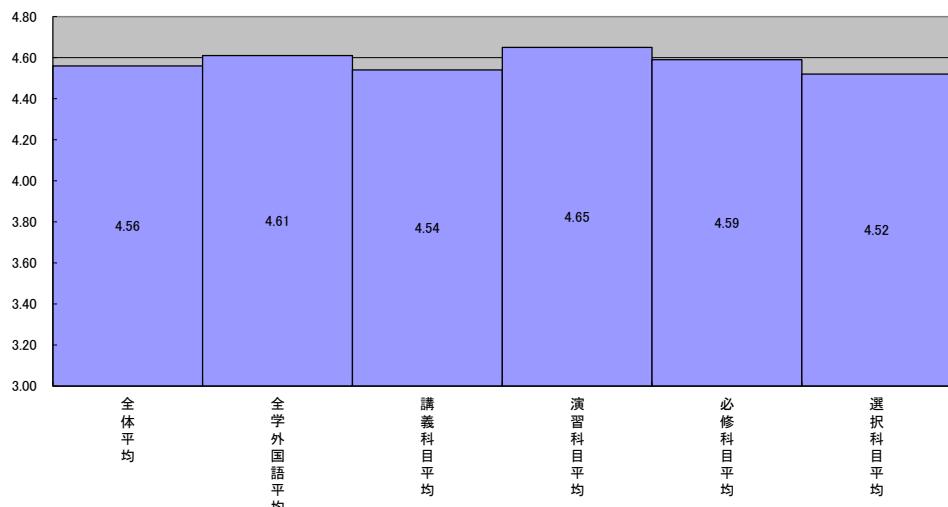
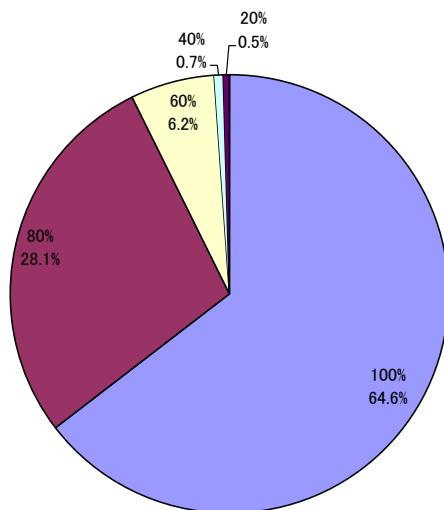
## 【設問5～10の合計】



## C 学生の行動に関する項目

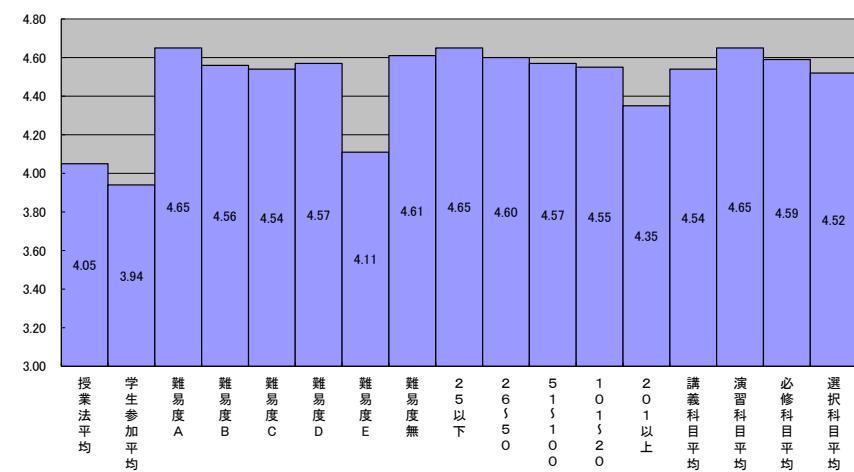
設問 11 この授業の自分の出席率は（ ）%程度であった。

	80%と100%の合計				20, 40, 60%の合計			
	24前・後	25前・後	26前・後	27前・後	24前・後	25前・後	26前・後	27前・後
全学教育全体	92.5%	92.1%	93.0%	92.7%	7.5%	7.9%	7.0%	7.3%
外 国 語	95.9%	96.1%	96.3%	95.5%	4.1%	4.0%	3.7%	4.5%
講 義 科 目	91.8%	91.4%	92.3%	92.0%	8.2%	8.6%	7.7%	8.0%
演 習 科 目	96.7%	96.0%	96.8%	96.2%	3.3%	4.0%	3.2%	3.8%
必 修 科 目	92.7%	92.5%	93.1%	92.5%	7.3%	7.5%	6.9%	7.5%
選 択 科 目	92.4%	91.7%	93.0%	92.8%	7.6%	8.3%	7.0%	7.2%



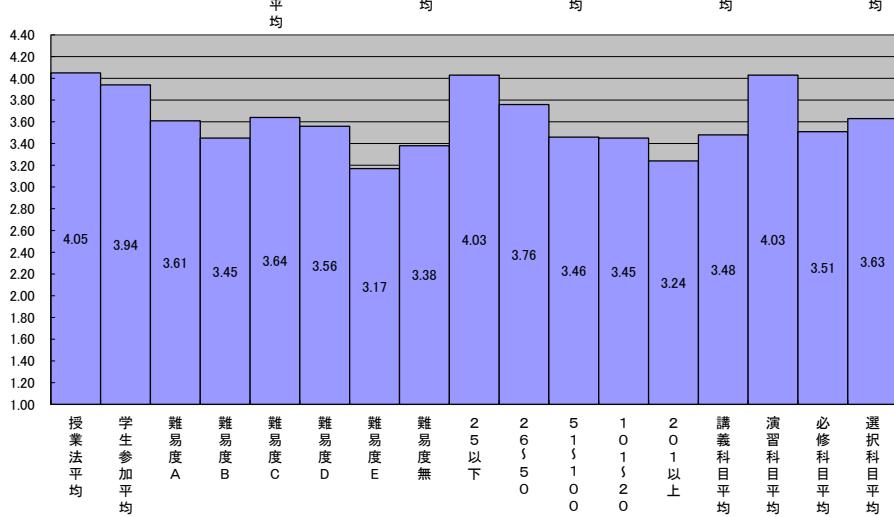
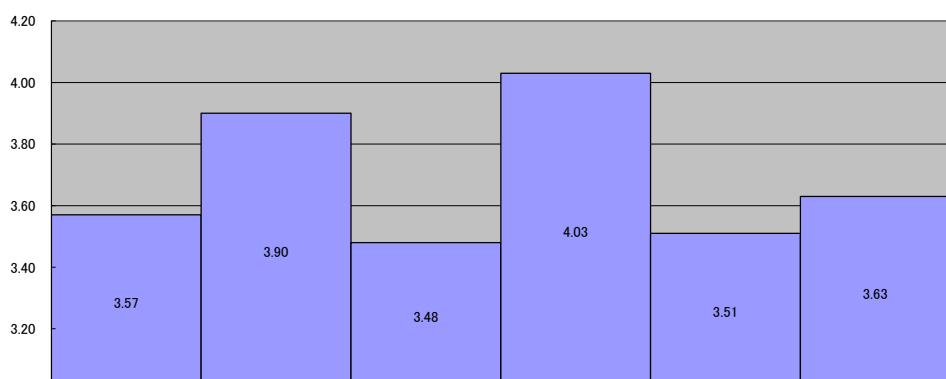
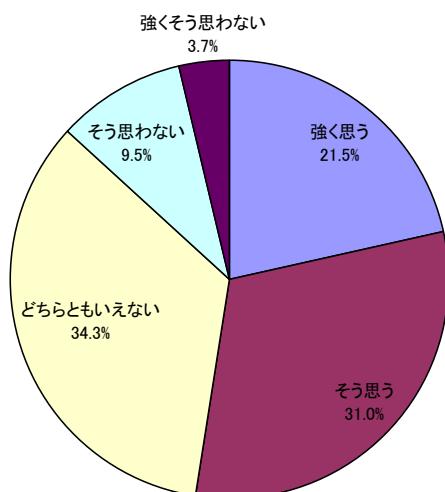
※右図において、「授業法平均」は設問 5, 6, 7について集計した結果であり、「学生参加平均」は設問 8, 9について集計した結果である。「難易度 A」については、設問 4において、「A:きわめて難しい」と答えた学生が本設問 11でどのように回答したのかを評点の平均値で表している（他の難易度も同様、「難易度無」は無回答）。さらに、「受講登録学生数」毎の本設問の評点の平均を示し、「講義科目平均」、「演習科目平均」、「必修科目平均」、「選択科目平均」については、上図の棒グラフと情報は重なるが、比較のために示した。

(続く、設問 12, 13 のグラフも同様)



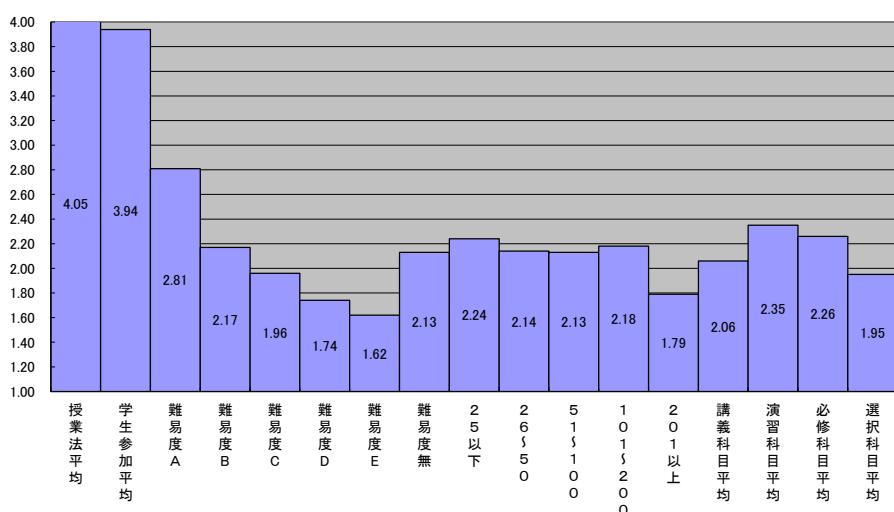
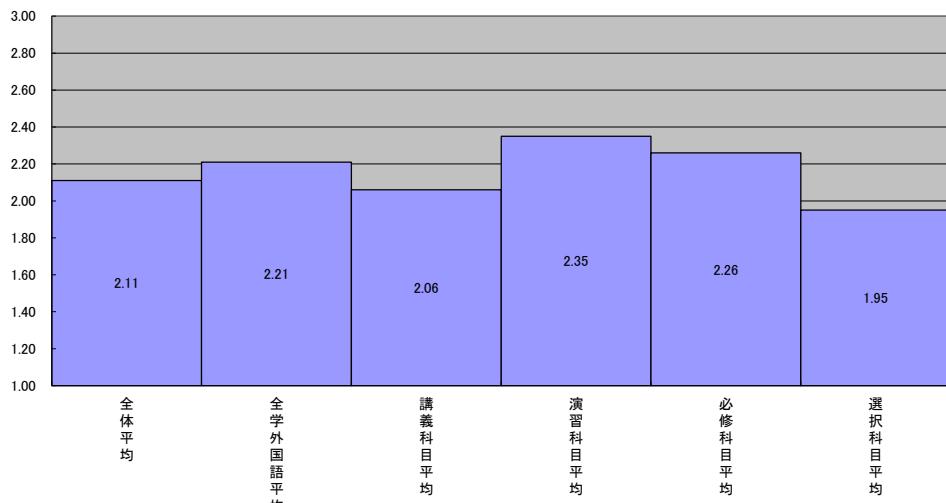
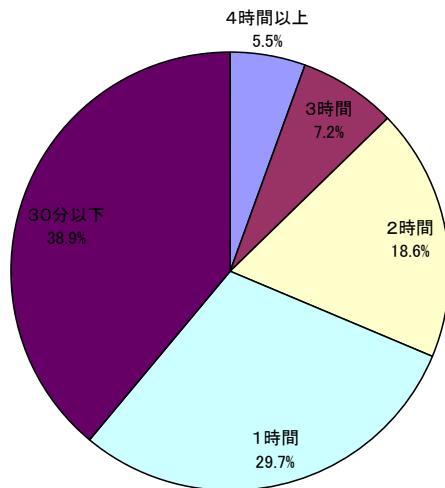
設問12 質問、発言、調査、自習などにより、自分はこの授業に積極的に参加した。

	そう思う (評点の4と5の合計)				そうは思わない (評点の1と2の合計)			
	24前・後	25前・後	26前・後	27前・後	24前・後	25前・後	26前・後	27前・後
全学教育全体	48.2%	50.3%	52.1%	52.5%	16.0%	15.2%	13.8%	13.2%
外 国 語	63.3%	67.7%	68.2%	68.3%	8.3%	6.8%	6.5%	6.5%
講 義 科 目	44.4%	46.5%	48.3%	48.0%	17.7%	16.9%	15.4%	15.0%
演 習 科 目	70.6%	71.3%	72.8%	74.2%	5.7%	6.3%	4.7%	4.6%
必 修 科 目	48.2%	50.8%	49.6%	49.6%	15.6%	14.3%	14.7%	14.1%
選 択 科 目	48.1%	49.9%	54.6%	55.5%	16.3%	16.2%	12.8%	12.3%



設問13 この授業1回(90分)のための予習・復習に費やした時間は平均( )であった。

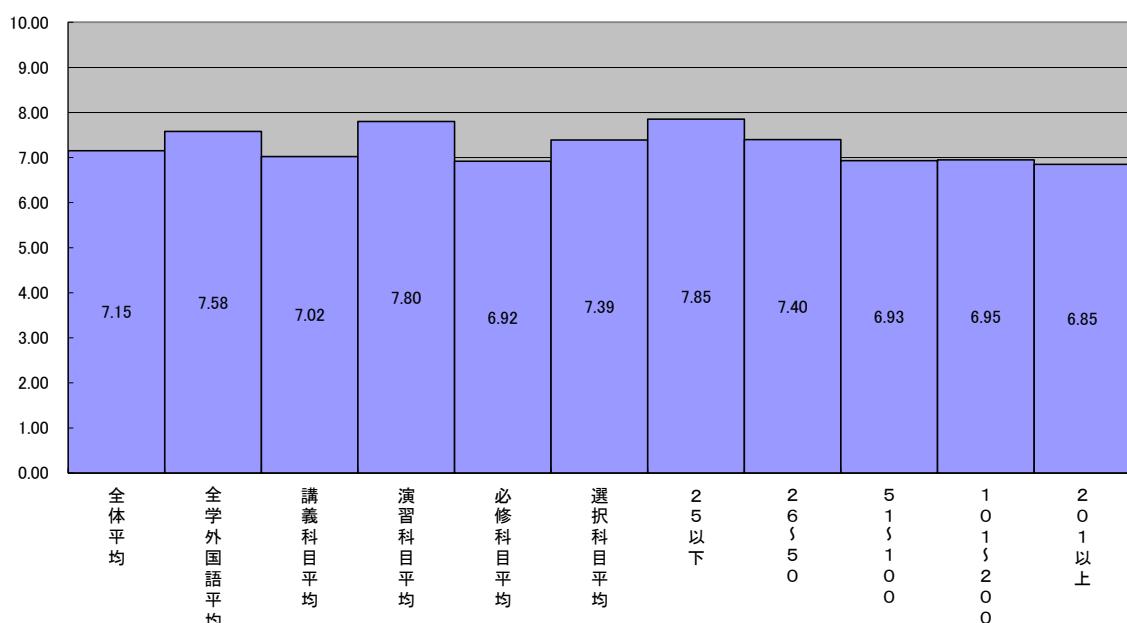
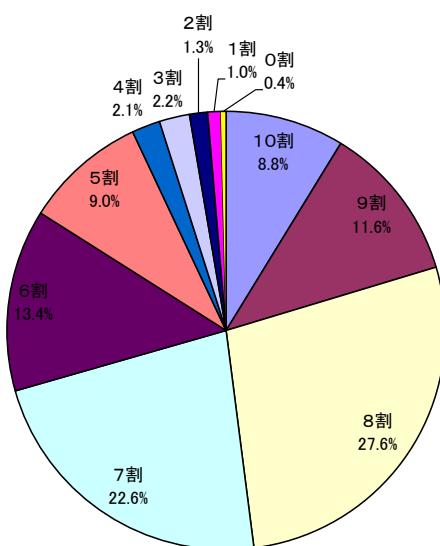
	3時間以上				1時間以下			
	24前・後	25前・後	26前・後	27前・後	24前・後	25前・後	26前・後	27前・後
全学教育全体	10.8%	11.5%	12.5%	12.7%	71.9%	70.4%	69.0%	68.7%
外 国 語	10.3%	10.9%	11.1%	10.9%	65.4%	66.5%	65.8%	66.9%
講 義 科 目	10.3%	10.9%	11.7%	11.8%	73.1%	72.0%	70.6%	70.2%
演 習 科 目	13.7%	15.0%	17.0%	17.3%	64.7%	61.7%	60.1%	61.0%
必 修 科 目	11.2%	12.6%	13.1%	14.3%	68.1%	66.3%	66.2%	63.9%
選 択 科 目	10.5%	10.5%	12.0%	11.2%	74.9%	74.4%	71.9%	73.5%



## D 教育効果

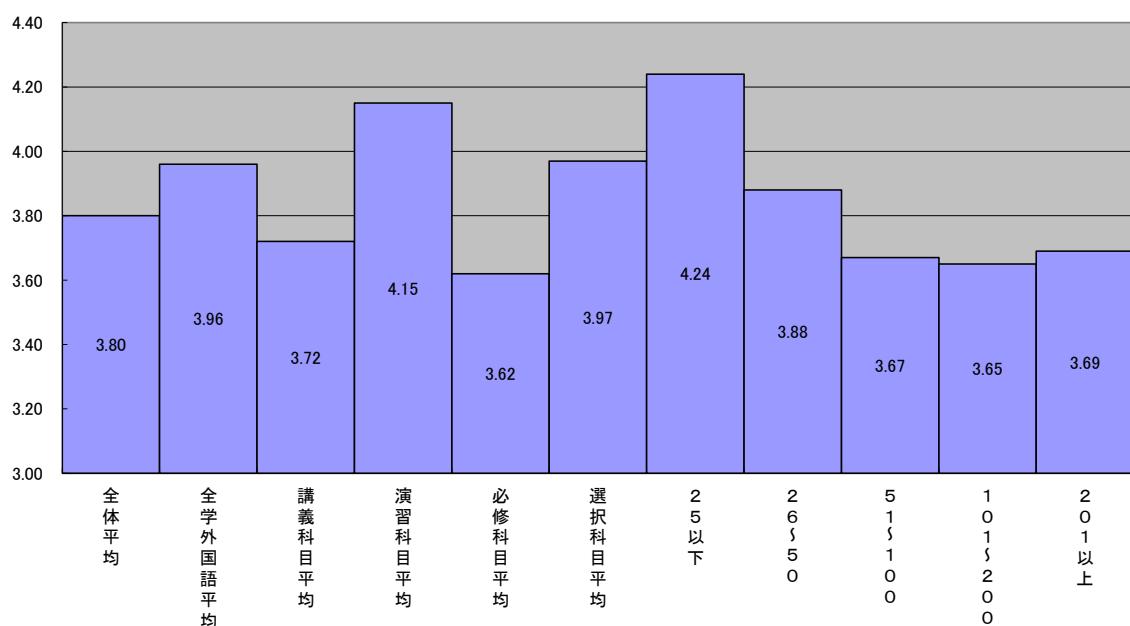
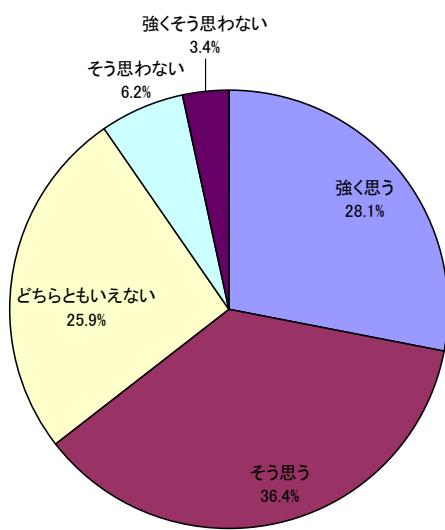
設問14 私はシラバスの到達目標を（　）割程度達成できた。

	8割以上				5割以下			
	24前・後	25前・後	26前・後	27前・後	24前・後	25前・後	26前・後	27前・後
全学教育全体	48.2%	48.1%	48.5%	48.0%	16.5%	16.3%	16.1%	16.0%
外 国 語	56.3%	58.0%	57.7%	57.2%	9.2%	8.3%	8.5%	8.4%
講 義 科 目	45.5%	45.6%	45.6%	44.8%	18.1%	17.8%	17.9%	18.0%
演 習 科 目	64.1%	61.9%	64.0%	63.5%	7.1%	7.9%	6.1%	6.3%
必 修 科 目	45.8%	45.6%	43.6%	42.8%	18.4%	18.2%	19.5%	19.9%
選 択 科 目	50.1%	50.5%	53.5%	53.3%	15.1%	14.5%	12.5%	12.1%



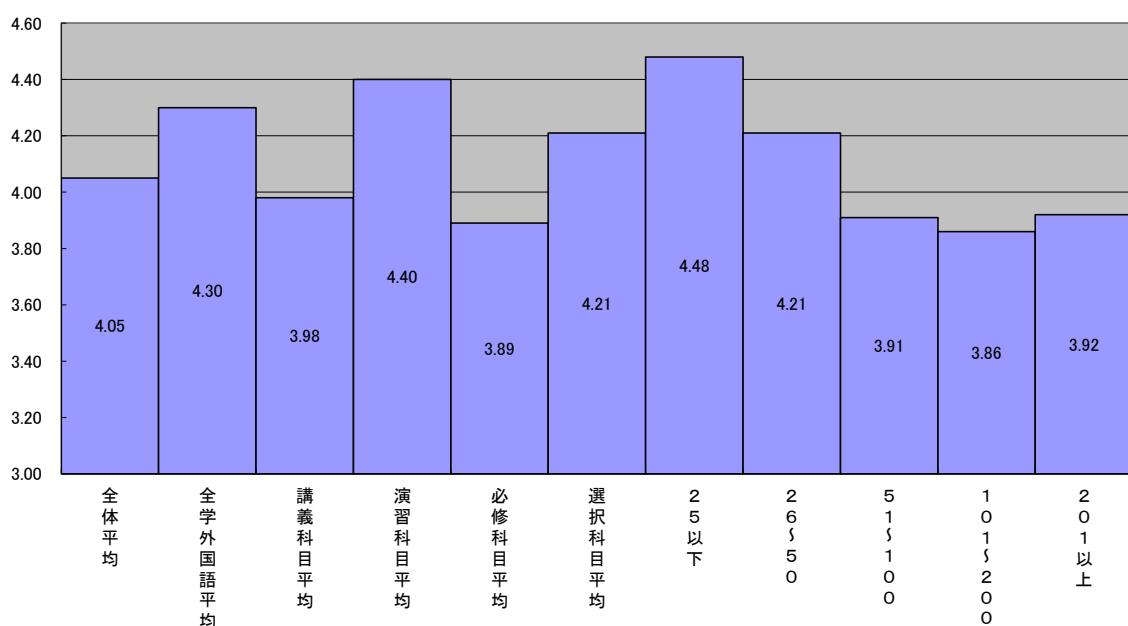
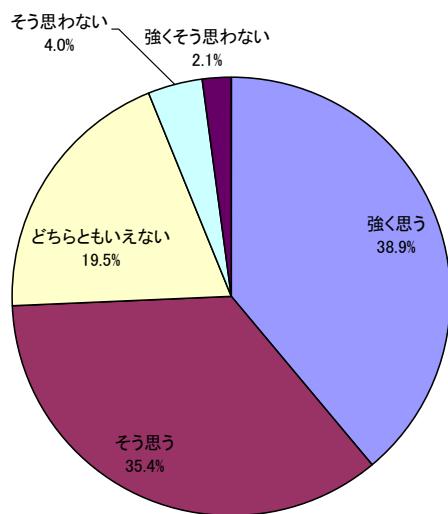
設問15 授業により知的に刺激され、さらに深く勉強したくなった。

	そう思う (評点の4と5の合計)				そうは思わない (評点の1と2の合計)			
	24前・後	25前・後	26前・後	27前・後	24前・後	25前・後	26前・後	27前・後
全学教育全体	64.2%	64.3%	65.7%	64.5%	9.6%	9.4%	9.2%	9.6%
外 国 語	69.1%	72.1%	73.1%	71.9%	6.5%	5.4%	5.6%	6.1%
講 義 科 目	61.8%	62.0%	63.0%	61.3%	10.5%	10.2%	10.1%	10.7%
演 習 科 目	78.3%	77.3%	80.4%	79.8%	4.2%	5.2%	4.0%	4.3%
必 修 科 目	58.6%	58.9%	57.7%	57.1%	11.7%	11.2%	12.4%	12.8%
選 択 科 目	68.6%	69.5%	74.1%	72.1%	7.9%	7.7%	5.9%	6.4%

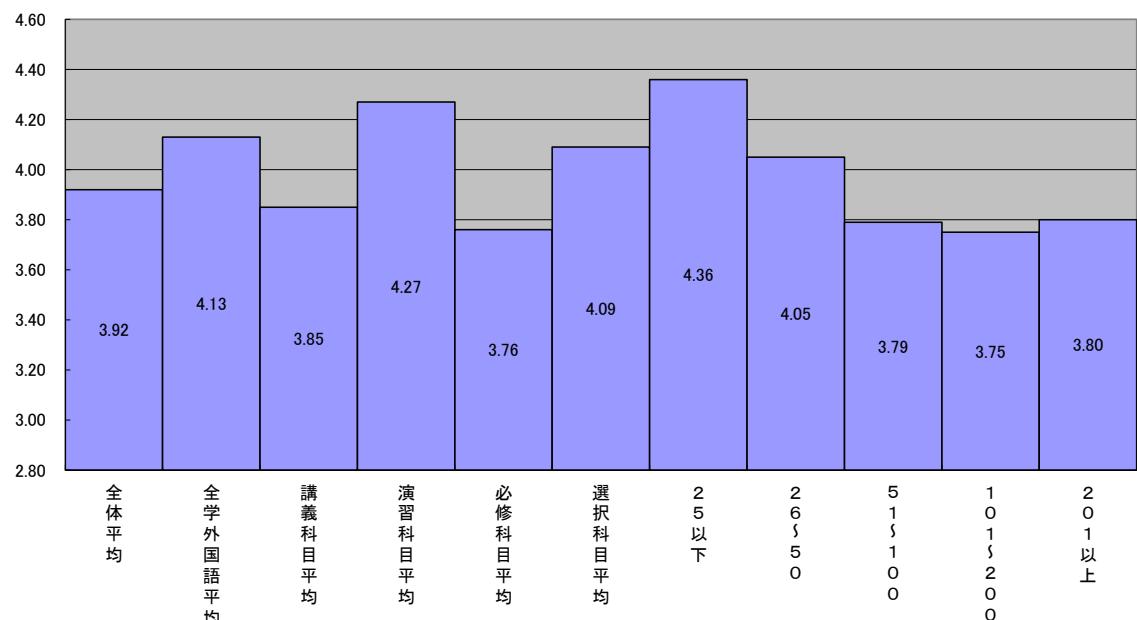


設問16 授業は全体として満足できるものであった。

	そう思う (評点の4と5の合計)				そうは思わない (評点の1と2の合計)			
	24前・後	25前・後	26前・後	27前・後	24前・後	25前・後	26前・後	27前・後
全学教育全体	73.5%	73.9%	75.0%		6.6%	6.5%	6.4%	
外 国 語	82.8%	85.1%	84.6%		3.6%	2.7%	2.9%	
講 義 科 目	71.2%	71.6%	72.6%		7.2%	7.2%	7.1%	
演 習 科 目	86.7%	86.6%	88.2%		2.9%	2.8%	2.3%	
必 修 科 目	69.3%	70.0%	68.0%		8.0%	8.2%	9.2%	
選 択 科 目	76.7%	77.7%	82.3%		5.4%	4.9%	3.4%	



【設問 15～16 の合計】



## 7. 総合評点の度数分布

教員各自の総合評価の位置づけを知るために、度数分布と順位を示した。すなわち、評価を受けた全学教育科目の総合評点度数分布、最高値と最低値、該当科目数のうちの順位、たとえば、評価を受けた科目全体の数〇〇中〇位として、位置づけを明確にしている。また、教員の所属部局を文系・理系に分け、「アンケート実施科目全体」、「文系」または「理系」、並びに「当該科目区分」（第2章に記載した8科目区分）のそれぞれについて、総合評点の度数分布と順位を示した。

度数の幅は評点平均0.1でグラフとしている。幅の取り方と関連して、多少の凹凸があるが、全体的には正規分布のグラフとなっている。

〈所属部局による文系・理系区分〉 ※非常勤講師は除く

〈文系部局〉

文学研究科	スラブ研究センター
教育学研究院	大学文書館
法学研究科	観光学高等研究センター
経済学研究科	外国語教育センター
メディア・コミュニケーション研究院	アイヌ・先住民研究センター
公共政策学連携研究部	社会科学実験研究センター

産学連携本部
人材育成本部
国際本部
高等教育推進機構

〈理系部局〉

理学研究院	先端生命科学研究院	脳科学研究教育センター
医学研究科	北海道大学病院	人獣共通感染症リサーチセンター
歯学研究科	低温科学研究所	サステナビリティ学教育研究センター
薬学研究院	電子科学研究所	環境健康科学研究教育センター
工学研究院	遺伝子病制御研究所	探索医療教育研究センター
農学研究院	触媒化学研究センター	保健センター
獣医学研究科	情報基盤センター	創成研究機構
水産科学研究院	アイソトープ総合センター	安全衛生本部
保健科学研究院	量子集積エレクトロニクス研究センター	フード&メディカルイノベーション推進本部
情報科学研究科	総合博物館	
地球環境科学研究院	北方生物圏フィールド科学センター	

「平成27年度授業アンケート」 評点平均の度数分布図①

評点平均の度数分布図①(全学教育科目)

「平成27年度(第1学期及び第2学期満年分)全学教育科目に係る授業アンケート」集計表

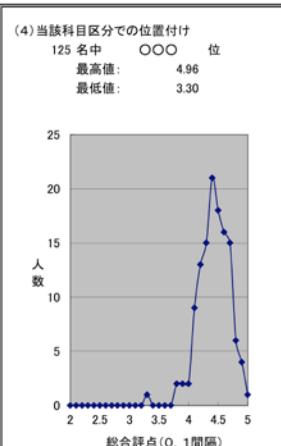
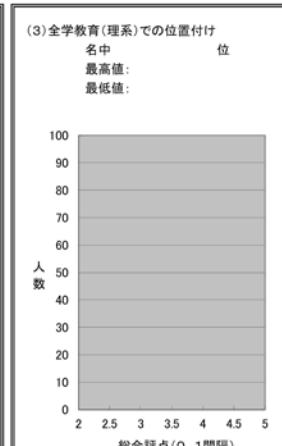
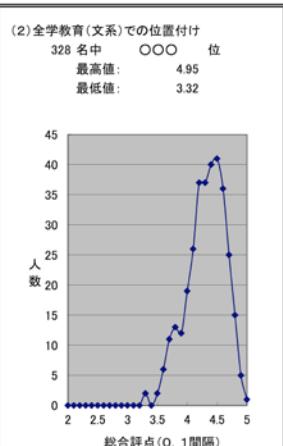
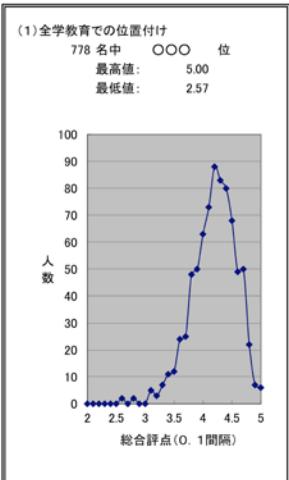
部局名: ○○○○○  
授業形態: 演習

氏名: ○○○○○  
科目区分: 全学教育科目(一般教育演習)

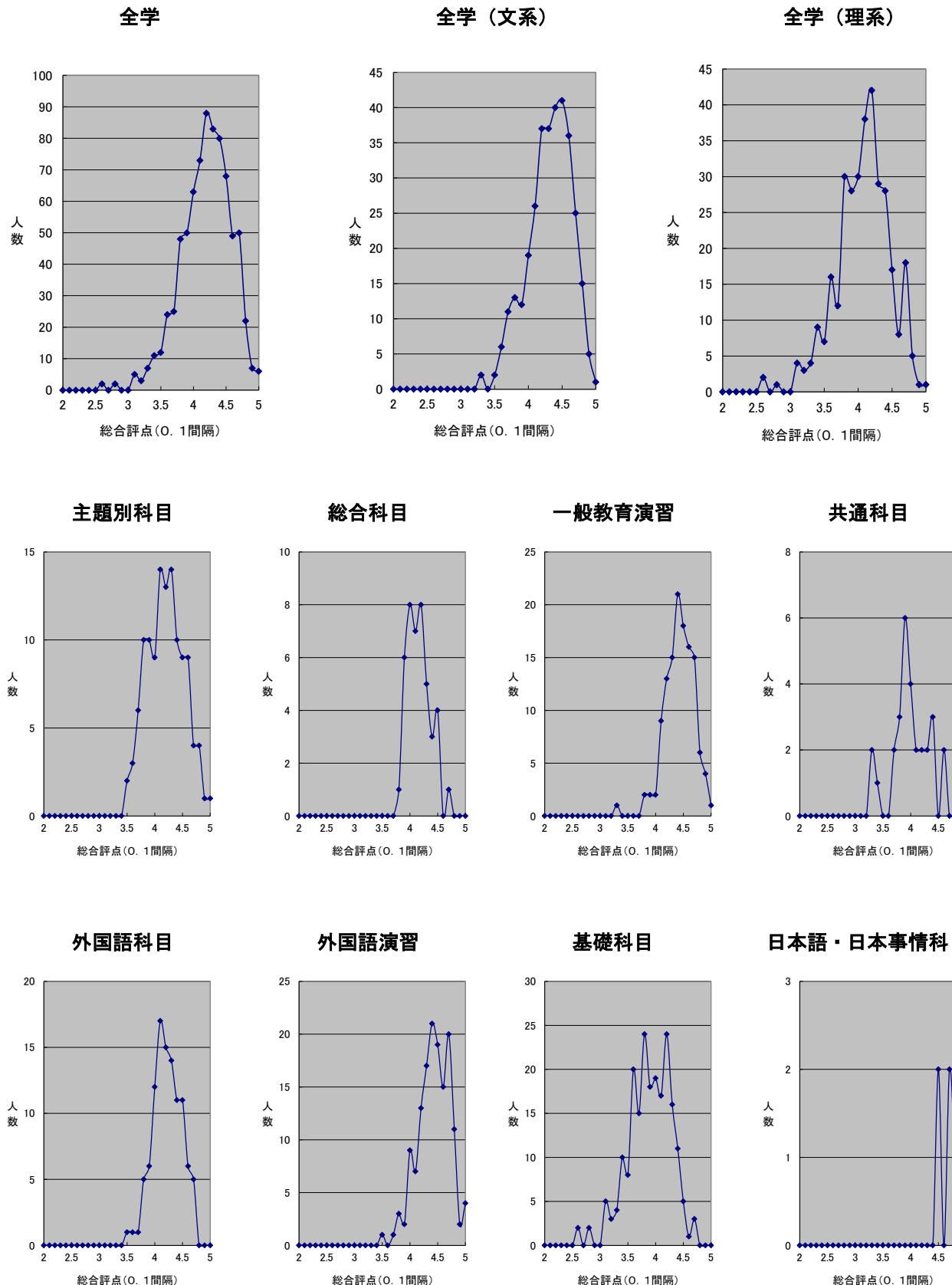
科目名: 一般教育演習(フレッシュマンセミナー)(○○○○○○○○○○)  
必修・選択: 選択 提出枚数: ○○ 登録学生数: ○○○

1. あなたの総合評点: 4.35

2. 総合評点の順位



## 全学教育における度数分布図





### C 受講生の行動(1)

	全体 平均	外国语 平均	講義 科目 平均	演習 科目 平均	必修 科目 平均	選択 科目 平均
11 この授業の自分の出席率は(%)程度であった。	100	64.55	66.11	63.63	69.06	67.95
	80	28.14	29.41	28.35	27.12	24.59
	60	6.19	3.96	6.75	3.49	6.28
	40	0.66	0.35	0.74	0.24	0.73
	20	0.46	0.17	0.53	0.09	0.45
	無回答	0.12	0.03	0.13	0.07	0.12
	平均値	4.56	4.61	4.54	4.65	4.59
12 質問、発言、調査、自習などにより、自分はこの授業に積極的に參加した。	5	21.50	29.77	18.81	34.57	19.85
	4	30.99	38.53	29.22	39.64	29.73
	3	34.31	25.19	37.00	21.17	36.32
	2	9.49	5.09	10.68	3.71	10.21
	1	3.71	1.43	4.29	0.91	3.88
	無回答	0.87	0.88	0.89	0.79	0.91
	平均値	3.57	3.90	3.48	4.03	3.51
13 この授業1回(90分)のための予習・復習に費やした時間は平均( )であった。	4H以上	5.55	3.95	5.18	7.33	6.12
	3H	7.18	6.95	6.61	9.96	8.13
	2H	18.62	22.22	17.99	21.69	21.84
	1H	29.72	39.84	29.24	32.07	33.46
	30分以下	38.93	27.04	40.97	28.95	30.45
	無回答	0.64	0.38	0.61	0.78	0.64
	平均値	2.11	2.21	2.06	2.35	2.26
設問11～13の合計	5	30.60	33.32	29.27	37.06	31.38
	4	22.11	24.95	21.40	25.57	20.81
	3	19.67	17.09	20.54	15.42	21.44
	2	13.27	15.09	13.54	11.98	14.78
	1	14.35	9.55	15.25	9.96	11.58
	無回答	0.54	0.43	0.54	0.55	0.56
	平均値	3.41	3.57	3.36	3.68	3.46

### C 受講生の行動(2)

	授業法 平均	学生 参加 平均	難易度					クラス サイズ(人)				
			A	B	C	D	E	無回答	25 以下	26 ～50	51 ～100	101 ～200
11 この授業の自分の出席率は(%)程度であった。	5	4.13	4.03	72.12	62.90	63.84	65.92	62.36	64.52	68.67	66.17	66.74
	4	4.03	3.90	22.83	31.68	27.41	28.03	18.08	32.26	28.43	28.92	25.52
	3	3.49	3.40	3.44	4.45	7.97	4.15	3.32	3.23	2.58	4.33	6.60
	2	3.38	3.26	0.82	0.72	0.53	1.41	0.74	0.00	0.17	0.31	0.70
	1	2.67	2.46	0.80	0.25	0.26	0.49	15.50	0.00	0.15	0.27	0.44
	無回答	3.07	2.70	0.11	0.09	0.11	0.14	0.00	11.43	0.15	0.05	0.14
	平均値											0.18
12 質問、発言、調査、自習などにより、自分はこの授業に積極的に參加した。	5	4.67	4.67	36.02	13.15	22.98	22.99	27.04	17.24	34.95	25.32	17.63
	4	4.19	4.11	16.37	36.79	30.94	31.60	16.67	37.93	38.88	36.16	29.23
	3	3.77	3.61	28.35	35.12	35.84	27.40	24.44	20.69	21.15	29.63	38.63
	2	3.52	3.31	11.27	11.63	7.51	14.16	10.00	13.79	4.27	6.65	10.63
	1	3.31	2.99	7.99	3.31	2.73	3.84	21.85	10.34	0.75	2.24	3.88
	無回答	4.02	3.88	0.57	0.74	0.95	1.20	0.37	17.14	0.75	1.00	0.85
	平均値											0.90
13 この授業1回(90分)のための予習・復習に費やした時間は平均( )であった。	5	4.57	4.61	27.10	3.29	2.65	1.55	6.69	6.45	6.18	4.06	5.11
	4	4.09	4.07	7.52	12.38	4.57	3.32	1.86	9.68	9.01	6.12	6.71
	3	3.96	3.93	15.02	17.90	20.46	12.51	8.18	16.13	20.31	20.65	20.32
	2	4.11	4.03	19.61	30.92	31.13	33.00	13.75	25.81	31.15	37.96	31.63
	1	3.97	3.77	30.75	35.50	41.18	49.61	69.52	41.94	33.35	31.20	36.22
	無回答	3.90	3.81	0.48	0.66	0.64	0.49	0.74	11.43	0.72	0.53	0.74
	平均値											0.53
設問11～13の合計	5	4.28	4.21	45.12	26.52	29.89	30.21	32.10	29.67	36.66	31.92	29.91
	4	4.11	4.02	15.58	26.96	20.97	20.97	12.22	26.37	25.44	23.72	20.49
	3	3.80	3.69	15.58	19.13	21.39	14.65	11.98	13.19	14.66	18.16	21.81
	2	3.96	3.85	10.55	14.40	13.04	16.18	8.15	13.19	11.84	14.97	14.30
	1	3.90	3.69	13.16	13.00	14.71	18.00	35.56	17.58	11.40	11.23	13.49
	無回答	3.91	3.77	0.39	0.50	0.57	0.61	0.37	13.33	0.54	0.53	0.58
	平均値											0.54



